

2013

Annual Report



ヴァヌアツ タンナ島



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶	1
活動地域紹介	2
海外活動報告	4
7月ヴァヌアツ共和国	4
11月フィリピン共和国	9
2月フィリピン共和国	12
フィリピン・レイテ島	15
海外活動参加者の声	17
国際交流	27
八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流	27
国内活動	38
学術報告	39
ジャパン デンタル ミッションについて	41
協力者名簿	42
2014年度海外活動予定	43
理事紹介	44



代表理事挨拶

近年、地球温暖化が進み、異常気象により各地で頻繁に災害が起こっています。昨年11月にフィリピン共和国レイテ島において、瞬間最大風速100mの台風（フィリピン名・ヨランダ）が猛威をふるったことが記憶に残っています。

JDMで何か出来ないかと考え、2月のカオハガン島での活動時にレイテ島を訪れ、調査を行いました。あまりの被害の凄さに驚かされました。

2階の屋根まで高潮が襲い、家屋が軒並み破壊され、瓦礫の山で未だに停電が続いています。

学校施設・病院・公共施設も高潮と暴風雨によって破壊されました。現在ユニセフからの支援の簡易テントの中で授業、診療が行われています。丁度、東北の津波に匹敵するような状況でした。

6月に大阪船場ロータリークラブと協力し、救援物資のドネーションを行いました。

又、9月には、JDMとレイテ島の歯科医師会の約20名体制で「歯科医療奉仕活動」を行う予定です。

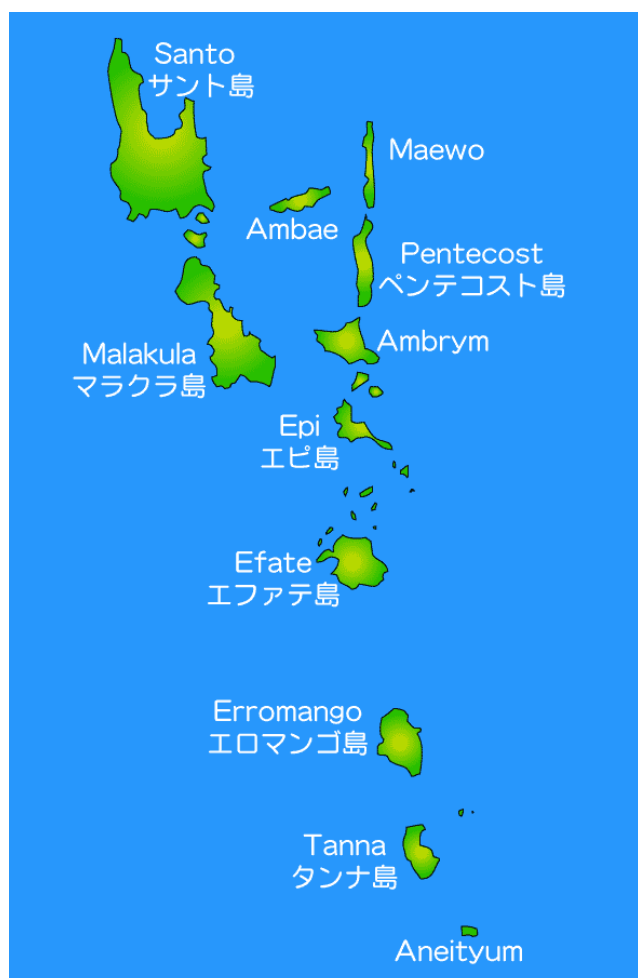
JDMは通常の歯科医療活動と共に今回のような自然災害にあった地域や人々に対する復興のお手伝いをするのも大きな意義があるのではないかと考えます。

会員及び賛助会員の皆様そして、現地へ参加して下さる皆様のおかげをもちまして、JDMは30数年に渡り、ボランティア活動を続けることができております。どうか今後共、皆様の温かいご支援、ご協力宜しくお願い致します。

JDM代表理事 沢田 宗久



活動地域紹介



ヴァヌアツ共和国



の島から成り立つ

人 口：約23万人
 首 都：ポートヴィラ（エファテ島）
 言 語：ビシュラマ語、英語、仏語
 宗 教：ほとんどがキリスト教
 寿 命：不明
 生産物：コブラ（ヤシ）、牛肉
 活動地：マレクラ島、タンナ島

紹
介：
8
3

フィリピン共和国



紹介：7,109の島から成り立つ
 人口：約8,857万人
 カオハガン島の人口は約450名
 首都：マニラ（ルソン島）
 言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
 宗教：ほとんどがキリスト教
 寿命：男65歳、女70歳（平均）
 生産物：バナナ
 活動地：カオハガン島（セブ州）



海外活動報告



ヴァヌアツ共和国
Republic of Vanuatu
タンナ島・マレクラ島

7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ タンナ島

期間 2013年7月13日～7月24日

参加者メンバー

(上段左から) 富本恵莉(V) 関根淳(D) 大西富子(H)

小西あゆみ(H) 辻本供代(V)

(下段左から) 斉藤勝一(V) 古森淳一(V) 沢田宗久(D)※歯科医師(D) 衛生士(H) 技工士(T) ボランティア(V)



活動内容

7月13日(土)

関西組5名が7時20分関西国際空港に集合し、9時20分香港に向け出発。香港12時20分着。

次のフライトまで6時間程あるので、町に出て食事をする。19時00分シドニーに向け出発。

7月14日(日)

シドニー6時20分着。関西組別便の2名と空港内で合流し、7名で10時45分ポートヴィラに向け出発。ポートヴィラ15時10分着。空港でローリー氏、Dr ラッセル氏が迎えてくれ、メラネシアホテルに移動。夜遅く関東からDr 関根がホテルに到着し、メンバー8名全員が揃う。

7月15日(月)

Dr 沢田、Vo 古森、Dr ラッセルは、政府・保健省とミーティングの為、ポートヴィラに残り、他6名は10時25分タンナに向け出発。タンナ11時05分着。迎いのドライバーが私たちを待っていてくれ、荷物、機材とも問題なく運ぶ事が出来た。宿舎に移動

中、市場で水、米、野菜など買う。

今年の宿舎はラナケル病院前で移動時間がなく活動しやすい場所を与えてもらう。それぞれに診療所、宿舎のセッティングを始める。宿舎は、ベトナム人で薬剤師をしている人が使っている場所を借り、冷蔵庫も使わせてもらえた。診療所は、昨年ポータブルのタービンの調子が良くなかったようで、1年の保管時間で直る事なく、水が出なくなっていた。早めに持ち帰り修理するようにしたい。翌日に向けての準備も整い、夕食後、Dr 関根のカルテ記入のシミュレーションの特訓があり、Vo 辻本、Vo 富本、Vo 斉藤は真剣に取り組んだ。



7月16日(火)

午前の活動9時00分より診療所で治療を始める。Dr 関根と共にメンバー慣れない中、治療・アシスト・クリーニングをする。Dr 関根は、残せる歯は出来るだけ残したいと考え、子供の抜歯は、親に説明し

確認の上で処置をし、これからのヴァヌアツの未来を考えながら治療に取り組んだ。

昼前にD r 沢田、V o 古森、D r ラッセルが病院に到着し、抜歯・充填・クリーニングと大忙し。

午後の活動14時00分よりD r 関根、DH大西は診療所で治療を始める。外回りラナケル小学校は、D r 沢田、D r ラッセル、DH小西、V o 古森、V o 辻本、V o 富本、V o 斉藤が行く。60名ほどの検診とドネーション（歯ブラシ・サッカーボール・クレパス）をし、文化交流では、南山本小学校の生徒が作った福笑いを面白可笑しく説明した。ラナケル小学校の生徒にも、最終日まで福笑いを作ってもらう。歯磨き指導を行い、最後には、国歌ユーミンを歌ってくれた。最高のプレゼントだ。診療後、V o 富本とV o 斉藤は、近所の子供達と賑やかにサッカーや縄跳びをして交流を深めた。



7月17日（水）

9時00分より、D r 沢田、D r ラッセル、DH小西、V o 古森は診療所で治療を始める。外回りイサングルは、D r 関根、DH大西、V o 富本、V o 斉藤が行く。歯ブラシ、サッカーボールのドネーションと検診をする。イサングルは仏語で教育されている学校で、今回DH大西は、仏語で、虫歯の説明・歯磨き指導をする為に、日本で以前から準備・練習をしてきた。V o 富本も手伝い、かなりの手応えがあり生徒たちに、

良く伝わったようだ。

14時00分よりD r 関根、DH大西、V o 富本は診療所で治療を始める。

午後からは、来院される人が減った時に様子をみて、D r 関根、V o 富本はラナケル小学校に残りの生徒の検診に行く。外回りI C P Sは、D r 沢田、DH小西、V o 古森、V o 辻本、V o 斉藤が行く。歯ブラシ・サッカーボールのドネーションと検診をする。DH小西は簡単な英語で、V o 古森の通訳の助けを借りながら歯磨きの練習をした。



7月18日（木）

9時00分よりD r 沢田、D r ラッセル、DH小西、V o 古森は、診療所で治療を始める。外回りラブキットは、D r 関根、DH大西、V o 富本、V o 斉藤が行く。歯ブラシ・サッカーボールのドネーションと検診をする。この学校も仏語で教育されているので、DH

大西は仏語で虫歯の説明をしたが生徒たちの反応が良くなかった。彼らは、虫歯の事を良く知らなかったからだ。まず、虫歯とは？からの説明をした。

14時00分よりDr ラッセル、DH小西は診療所で治療を始める。Dr 沢田、Vo 古森はラナケル小学校に最後の検診に行く。

午後からは、クリーニングを希望する人が、多数来院された。外回りロカタイは、Dr 関根、DH大西、Vo 富本、Vo 斉藤が行く。歯ブラシとサッカーボールのドネーションと検診をし、歯磨きの練習をした。

診療終了後に雨が降り、その後タンナの空に大きな虹が架かった。

16時00分ヤスール火山に向け出発。道中、雨・風が強く火口まで行けるのか？不安な気持ちでトラックを走らせたが、なんとか噴火口まで登って行くことが出来た。暗闇の中、真っ赤なマグマが噴火し爆音が胸に響き、自然の強さ・怖さに立ちすくんだ。宿舎に戻ると、Vo 辻本が出発前に、たくさんのおにぎりを作ってくれ、メンバーの胃袋も満足し、ヤスール火山の感動を分かち合った。

Vo 辻本は、火加減、水加減を調整し鍋でご飯を炊き、野菜や芋を和風だしで炒め煮したり、毎朝の断水で困らないよう水を鍋いっぱい溜めたりと、メンバーの活動を支えた。



7月19日(金)

宿舎、診療所の後片づけが始める。

在庫の確認をし、来年の活動の為に整理しコンテナに詰める。Dr 沢田、古森は、ラナケル小学校に頼んでいた福笑いを取りに行く。11:00現地の人たちにお別れをしながら、空港近くにあるホテルで食事をし、フライトまでの時間をゆっくり過ごした。

16時20分ポートヴィラに向かうはずの飛行機がエンジントラブルで動かず、タンナに足止めされる。メンバー8名オーシャンビューロッジに泊まる事になる。Vo 古森が頭痛・吐き気に襲われ仮眠を取る。他メンバーは食事に出かけ、戻るとVo 古森の体調も回復し、メンバーは安心した。





7月20日(土)

前日のキャンセルの事もあり混雑が予想された。9時30分チェックアウトし早めにチケットの手続きをした。13時00分ポートヴィラ出発のはずが、15時00分頃になり、V○古森、V○辻本はシドニーに、Dr 関根はヌーメアに乗り継ぐ飛行機に間に合わず、メンバー8名メラネシアホテルに泊まる。日本の家族やメンバー、旅行会社に連絡をする。

7月21日(日)

早朝、V○古森、V○辻本はシドニーを経由し日本へ。他メンバーは航空会社との手続きをする為に8時30分ホテルを出発する。Dr 関根は16時00分ヌーメアを経由し日本へ。関西組5名は、13時00分オークランドに向け出発。オークランド5時00分着。すぐカウンターに行き、ヴァヌアツ航空の遅延証明書を見せチケットの変更をお願いしたが、明日10時にならないと担当が来ないので手配出来ないと、空港前にあるホテルに泊まる。

7月22日(月)

9時30分チェックアウトしカウンターに向かう。日本の旅行会社と現地のスタッフとの交渉のやり取りが続き、新たに1人40万円×5名分の正規のチケットを買わないといけないと言われ、他のルートで安いチケットを探したりしたが、最終的には、1人2万円程の追加料金を支払う事になった。予定より3日遅れになるが帰国出来る。再度、ホテルにチェックインし町に昼食兼夕食を摂りに出かける。

夜、日本からホテルのフロントにEチケットがFAXで届き、やっと安心して眠れた。

7月23日(火)

13時25分香港に向け出発。香港21時05分着。

7月24日(水)

1時45分関西国際空港に向け出発。関西国際空港6時25分着。関西組5名、たくさんの人に迷惑をかけ、助けられて無事に帰国することが出来た。解散式後、それぞれ自宅に向かう。家に帰るまでが、JDM。

〈Dr 沢田リーダーの総評〉

今回のJDMの活動の参加者は歯科医師2名、歯科衛生士2名、ボランティア4名、現地歯科医師ラッセル氏、総勢9名で、7月13日から24日まで行った。

関空⇒香港⇒シドニー⇒ポートヴィラに到着、Dr 関根は去年同様ニューカレドニア経由で夜10時過ぎに到着し、翌日からタンナ島に向かい活動を行った。

ボランティア4名の内2名は、奈良県の生駒ロータリークラブのメンバーで主に通訳と飯炊きとして参加、後の2名は中学生と大学生でした。

特に、古森氏は海外との仕事の関係で英語が堪能で通訳をして頂き大変助かりました。辻本様はご高齢にも関わらず、朝・昼・晩と3度の食事を作って頂いたおかげで我々は医療活動に専念することができた。V○富本、V○斉藤の学生達は歯科助手や学校検診時のカルテ記載、荷物の運搬等を行い、それぞれのモチベーションを十分に発揮していた。

今回の学校検診は英語系の小学校、レナケル・ICPS・ロカタイとフランス語系小学校イサンゲル・ラプキットの5校でした。DH大西はフランス語で媒体を作製し虫歯の説明、歯磨き指導を行う為に日本でかなり前から準備、練習を行っていた。V○富本もフランス語の通訳を手伝い生徒達に良く伝わったようである。

八尾市立南山本小学校とレナケル小学校間で毎年行っている文化交流は今年は福笑いを行った。日本から15セットの福笑いを作製し、使い方を生徒達の前でデモンストレーションしたが、なにぶん初めて見る為に生徒達の目が点になっていた。二日後にレナケル小学校の生徒が作った福笑いを頂きに行った所、人の顔がもとより、椰子の木、サトウキビ、パパイヤ、バナナといった日本とは違った手法で作製していて、大変おもしろい作品である。

V○富本、V○斉藤は検診やドネーションを手伝ったり、生徒達とサッカー、バレーボール、縄跳び等をしたり、現地の子供達と仲良くなり、お互いに交流をはかっていた。これが本来のボランティアを通じての青少年育成であると思った。

今回ヴァヌアツ政府、保健省、教育省とのミーティングを3回行ったが、以前からの課題である、ウォータータンク・プロジェクト(雨水を溜め生活用水とするタンクを山間部に普及する活動)の件について随分突っ込んだ話になり、ヴァヌアツ政府としては是非とも実現したいとの要望であり、我々としても来年7月の活動時にドネーションできるように努めて行く事を約束した。

今回活動中に大きなトラブルに見舞われました。タンナ島からポートヴィラに帰る時、ポートヴィラからタンナ島に向かう飛行機がエンジントラブルを起こし丸一日遅れでポートヴィラに到着、その為ニュージーランドのオークランドでチケットの関係で2日遅れた。

その間に航空会社・旅行社と我々までやりとりをして、結局3日遅れて帰国しました。その為に、ご家族・勤務先・関係者の皆様方に随分ご心配、ご迷惑をおかけいたしました。全員無事に帰国できましたことに感謝しています。

データ

	7/16	7/17	7/18	7/19	総数
抜歯	18	21	30	0	69 本
充填	5	18	13	1	37 本
スケーリング	15	9	16	0	40 人
チェックアップ	1	8	2	0	19 人
受信者数	27	41	50	1	119 人

小学校検診データ

2013年	検診人数	DMF	DMFT 指数	DMF 歯率
レナケル	193	248	1.28	5.13%
イサンゲル	223	202	0.905	3.96%
ICPS	89	123	1.382	5.28%
ラブキット	46	70	1.47	6.67%
ロカタイ	120	91	0.733	3.03%
5校	671名	734本		





11月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カハガン島

期間 2013年11月20日～11月24日

参加メンバー

(上段左から) 諸井香利(D) 倉橋朋子(H) 矢沢優菜(D)
上崎秀美(D) 大西富子(H) 矢川美
樹(H) 杉石真美(H) 山岸優子(H)
難波智香(H) 山下恵里佳(H)

(下段左から) かおりさん(現地スタッフ) 合田健志(D)
今村ちひろ(D) 崎山さん(現地)
沢田宗久(D) トッペル(現地) 中島花世
(H)

※歯科医師(D) 衛生士(H) 技工士(T) ボランティア(V)



活動内容

11月20日(水曜日)

関西組は、関西国際空港に朝7:30に全員集合。天気にも恵まれ、予定通り10:30にフライト。夕方四時過ぎにセブ空港に到着し、東京組と合流。そのままバス、船を乗り継ぎ20:30頃にカハガン島に到着。



着。夕食後21:00よりミーティング。みんな、明日からの活動に備え、今日は早めに就寝。といっても時差が一時間あり、セブの方が一時間遅れる為、日本

時間では深夜を越える時間となっていた。今回はドクター6人、衛生士8人でミッションに挑んだ。

11月21日(木曜日)

7:30に朝食。活動初日の天気はとても良い。朝のミーティングを行い9:00より全員手分けして、診療準備にとりかかる。早朝より、沢山の島民がバランガイホールに集まっていた。昨日、セブではお祭りが開かれていて今日は学校がお休み。その為、午前中・午後ともにカハガンの島民が多かった。パンダノンやパンガアの島民が少し午後に来た。





11月22日（金曜日）

朝からカオハガンスクールとバランガイホールと二手に分かれて活動をした。子供達はやはり治療が怖いみたいだ。検診をして治療の必要がある子でも、逃げてしまってバランガイホールまでなかなかきてくれない。一方で、高校生くらいの子は小さなカリエスでも治してほしいとやってくる子もいた。この日は、セブやボホールからもやってきた患者さんがいて JDM の認知度がそこまで広がっているんだなと思うとすごいことだなと思った。



11月23日（土曜日）

活動最終日。朝から沢山の患者さんが列をなしていた。午前中だけの診療で38名の治療となった。ドクターも歯科衛生士もフル活動だった。義歯作成希望の患者さんもあり、次回二月の予約はいっぱいにうまった。



午後からは、カハガ島の大変な交流会である運動会。リレー、飴競争、綱引き、玉入れと、どれも大盛り上がるイベントだ。治療だけでなく、このような交流にも参加してくれている姿をみると私達の存在を受け入れてもらっているのだなと再確認できるととても楽しい運動会になった





11月24日（日曜日）

移動最終日。早朝3:45に母屋に集合し、空もまだ真っ暗の中カハガン島を出発。行きも帰りも天気恵まれ晴天。お月様がきれいだった。満潮の時間を選んでいたので船は島の岩場について、一歩も海の中に入ることなく乗船できた。こんなことはかなり珍しい。早起きは三文の徳！4:30頃にセブに到着し、マニラを經由して関西国際空港に到着。時間は20:00。無事に全員帰国し、今回のミッションを終えた。

人々の美しい笑顔、子供たちの楽しそうな声… 私たちが現地で目にして感じる事ができたこの喜びを、JDMの活動を日々支えてくださっているすべての方々へお届けしたいと思います。たくさんのご支援ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



データ 治療結果

	21日	22日	23日	合計
抜歯	109本	150本	81本	340本
CR	14本	19本	18本	51本
セメント	21本	84本	5本	110本
SC	12人	27人	7人	46人
義歯修理	5人	3人	0人	8人
チェックアップ	2人	2人	4人	8人
人数	71人	112人	38人	221人

島別受診者	
カオハガン	73人
カオハガンスクール	64人
パガンアン	21人
カブルアン	12人
バンダノン	75人
セブ	1人
ボホール	1人
パシル	2人
合計	125人

★11月カハガン リーダー総括★

今回は歯科医師6名、歯科衛生士8名14名での活動でした。メンバーは東京、大阪、神戸、岡山など多方面で、歯科医師も多く診療もスムーズに進行し日程的には、木、金の2日間学校検診に出かけることができました。

診療、媒体教育も全員の協力のもとに粛々と進行し成果をあげられたことをうれしく思います。

週末には島民で歯科医学生のアノイ・エッジも手伝いに帰ってきてくれて助かりました。今後の大きな戦力となることを期待しています。

大きなトラブル、体調不良等もなく全員無事に帰国できました。帰るまでがJDMの合言葉をまたまた再確認して解散しました。

上崎 秀美

2月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カハガン島

期間 2014 年 2 月 7 日～2 月 11 日

参加メンバー

(上段左から)大西富子(H) 望月知未(T) 今本裕紀(D)
倉橋朋子(H) 橋口敦(T) 中辻孝一(T)
川本麻央 (D)

(中段のVサイン) 山崎亜希子(H)

(下段左から)中窪円香 (V) 大野綾子 (H) 沢田宗久 (D)
佐藤由佳 (H) 宮辻幸枝 (H) 上崎秀美 (D)

※歯科医師(D) 衛生士(H) 技工士(T) ボランティア(V)



活動内容

2月7日(金曜日)

午前7時30分関西空港に集合、関空からの参加者9名

手荷物検査での機材が重量オーバーの為、手続に時間かかり、慌ただしく出発しました。無事セブ着、Dr 沢田・Dr 上崎・成田組3名と合流し車と船を乗り継いでカハガン島に午前10時頃到着。食事後、スタッフの香織さんから、島の設備の説明と注意点、新しい日本人スタッフの紹介があり、続いて JDM 参加者の自己紹介、上崎リーダーから明日からの活動の説明がありました。



2月8日(土曜日)

今回も午前7時30分より朝食、スタッフの気遣いのお陰でスムーズに食事終えた後、JDM メンバーと島民とで診療所の設営に取りかかった。気持ちが、活動モードになってきた。今回は、多くの義歯予約があるので、早速義歯の印象に取りかかった。午後からは咬合採得の為、技工作業はいつも通り外で行った。

検診も各自のパートをこなし、順調に検診を行った。

Dr 沢田は午前3時頃にカハガン島出発レイテ島に台風被害の視察ドネーションに行かれた。





2月9日(日曜日)

午前9時診療開始、診療室はフル回転で各自の仕事を考えながら順調に進んでいった。義歯の作成も若手技工士(望月さん)の参加で、3人の役割分担を決めスムーズに進んでいった。今回は日程が短かった為、実質2日間の技工作業だったので大変でした。

午後2時過ぎにDr 沢田レイテ島視察から帰ってくる。早速診療に合流する。午後5時30分診療終了。夜のミーティングで今日の反省点等話し合った。Dr 沢田からは、レイテ島視察の報告があった。JDM に対してレイテ政府からの要請があったことと、今後どのように協力していくかが話し合われた。

2月11日(月曜日)

午前9時診療開始、今回は月曜日しか学校検診できないので、Dr 上崎 Dr 今本 DH 大西 DH 倉橋が診療室に残り、残りのメンバーで学校に行き、検診ブラッшин

グ指導、チェックアップを行った。診療室では義歯のセットと治療を午前で終え、午後からは後かたづけ、在庫整理、不足分のチェック荷物のパッキング、今回



はフリータイムがなかったのが残念である。午後4時から恒例の運動会、宿泊客の方も参加されて楽しい交流になりました。

最後の夕食は野外でとりながら、今回の活動の感想を一人ずつ述べた後、Dr 沢田から総括がありました。

2月12日(火曜日)

カオハガン島8時に出発し、セブ空港での朝食後成田組と別れ、セブ島1時間遅れて出発、関西空港で到着後記念写真を撮り解散。お疲れ様でした。

総括

今回は、歯科医師4名、歯科衛生士6名、歯科技工士3名、ボランティア1名でのミッションでした。いつもどおりの技工中心の2月ミッションに加えて代表がレイテ視察へで



かけ、曜日の並びもイレギュラーで、私自身も戸惑ってしまいました。参加者の皆さんには無理、不便をおかけしたのではと思っています。そんな中でも協力して、診療し、多数の義歯を作成し、媒体活動をし、最終日には運動会もフルパワーでこなす頼もしいメンバーに勇気づけられた日々でした。

例のごとく、リーダー私を支えていただいた皆様に感謝しつつ See you next time!

上崎

データ
治療結果

	2/8	2/9	2/10		合計
				スクール	
E X T	81 本	118 本	39 本	29 本	267 本
C R	19 本	88 本	22 本	14 本	143 本
セ充	14 本	13 本	4 本	40 本	71 本
S C	9 人	21 人	6 人	1 人	37 人
T B I	7 人	14 人		10 人	31 人
チェックアップ	4 人	1 人		5 人	10 人
D s e t	3 人	6 人	3 人		12 人
Dバイト	12 人	1 人			13 人
Dリペア	4 人	1 人			5 人
Dリベース	6 人	0 人	1 人		7 人
人数	67 人	92 人	26 人	40 人	225 人

島別受信者	
カオハガン	51 人
カオハガン スクール	40 人
パンダノン	86 人
パンガアン	11 人
カブルアン	18 人
クアミング	9 人
合計	215 人



フィリピン・レイテ島

タクロバン市の台風被害視察と今後の活動

2013年11月8日（金）にフィリピンを襲った台風30号の被害状況について日本では、その報道がめっきりされなくなっていますが、昨年11月にフィリピン・カオハガン島での歯科医療奉仕活動に行った際、救援物資として歯ブラシ500本、鎮痛、消炎剤6000錠、医療用グローブ、マスク、古着、毛布、食料、蚊取り線香等を寄付致しました。

レイテ島で奉仕活動を行っている元 JICA 職員の佐藤千咲さんに現地の被害状況をお聞きして、JDMとしてこれから何か出来ないものかと考え、2月のカオハガン島活動中に佐藤さんと一緒にレイテ島の最も被害が大きかったタクロバン市に行って参りました。

2月8～9日の一泊二日でしたが、早朝よりタクロバン市内・マグリアナス地区の視察から始まり、⇒アニボン地区⇒サンノセ地区⇒パライソ⇒パロ市⇒タナワン市と廻り、各地区の責任者と会見し、公民館活動などの現状や医療体制などを把握しました。夜も子ども達の映画会などの集会場所で歯ブラシや飲み物を配布致しました。

佐藤さんは現地と国連を含む国際機関の支援をより円滑に進めるようにコーディネートをする仕事をされています。3ヶ月過ぎて今は現地で市民の自立支援活動をされています。



台風30号（フィリピン名・ヨランダ台風）の勢力はすさまじいものでした。上陸時の中心気圧は895hPa、最大風速84.7m/s、最大瞬間風速102.7m/sでした。中でもレイテ島、サマル島は甚大な被害でした。海岸部の被害の多くが「高潮」によるもので、最大5～7mの高潮が住宅、建物を一瞬にして襲いました。台風が頻繁に通過する地域で台風慣れしていて、高潮に関して警戒が不十分であった事も被害を大きくした原因ではないかと思われます。非難場所とされていた学校、公共施設も高潮に襲われ、多くの住民達も犠牲となり

ました。

台風直撃後から数日間全ての通信網が遮断され、現地の状況が全く分からないため、政府の対応が遅れ、現地の治安状況は悪化しており、物資を求めて略奪、強奪、混乱が続いていました。

被害推定：約1200万人 約260万世帯

建物損傷約119万軒

死者（行方不明者含む）：5755人

負傷者：26123人

上記の死者・負傷者の80%がタクロバン市・パロ市・タナワン市



2014年2月現在 現地状況

生活環境

多くの家屋が全壊・半壊し、修理のための物資、人的リソースが足りず、多くの住民が壊れた家屋で現在も被災生活中。電気復旧作業はまだ進行中。公共施設、主要道路の街灯は徐々に戻ってきているが、一般家庭にはまだ十分に電気は来ていない。住民の多くは1ヶ月に一度程度支給される食料に頼って生活している。

教育関連

学校施設の多くが全壊、半壊し、施設の多くが一時避難所として使用されている。ただし、学校再開にあたり避難者は減少中。1月17日より多くの学校が再開し始めたが、限られた時間で授業が行われている。

UNICEFの支援で臨時の小学校施設が提供され、多くの生徒がプレハブテントのような場所で授業を受けている。多くの児童が行き場も無く、壊れた瓦礫の中で生活している。

保健医療

政府、プライベートの医療施設の多くが台風により甚大な被害を受け、現在、国連を含む国際機関の支援により政府系の多くの医療機関が臨時医療施設や一時的な建物の修復により機能している。特に、優先順位

が低い歯科医療サービスや顕微鏡等の機材が不足している。結核関連の医療サービスは大きな課題となっている。

薬局は薬を求める人々で長蛇の列。特にビタミン剤や継続的ケアに必要な医薬品が不足。

メンタルヘルス、栄養分野はこれからますますニーズが高まる分野であり、対応が必要とされている。



今後のニーズとJDMの支援活動の方向性

今後のJDMの対応として、草の根レベルで出来る活動の継続的实施を考えています。特に現地での歯科医療の不足と復旧の遅れに対し、我々は歯科医療の提供と歯磨きの習慣の指導を検討しています。その為に各ヘルスセンターの責任者の方々と会見し、日本からの歯科機材や治療器具、マンパワーなどの提供と共に現地で活動できるように受け入れ態勢を整えるよう要請いたしました。

今年度は日本より歯科医療機材を持ち込み、治療活動と歯ブラシ指導活動を進めて行く予定です。

18年間継続して行われている、フィリピン・カオハガン島の歯科ボランティア活動を活かし、レイテ島・タクロバン市でのボランティア活動を今年9月10日(水)～9月15日(月)に実施する予定です。

カオハガン同様に、この活動にも沢山の皆様のご参加を希望しております。

今後共、宜しくご支援の程お願い致します。

代表理事 沢田 宗久



海外活動参加者の声

川本 麻央(歯科医師)

カオハガン参加感想文



今回、初参加させて頂きました。
日常とは掛け離れた状況の中、その雰囲気のにのまれそうになり、やらなければならない事、自分のできる事、出来ない事が混同し、空回りを繰り返す自分に、初日は本当に歯痒さを感じました。
無限にくる患者様を前に、医療人として、一人一人に向きあう余裕さえなくなりました。
そんなときに、チームのベテラン先生、衛生士さんから、どう患者様と向き合うかを肌で学びとらせて頂けたと思います。
日本のような設備もなく、治療に限界はあるけれど、奉仕する心は変わらない事を、再確認いたしました。
この気持ちを常に持ち、また日々の治療に邁進したいと思えます。
そしてまた、カオハガンの島民に会える日を、楽しみにしています。

古森 淳一(ボランティア)

ヴァヌアツ活動感想文

今回、初めて海外ボランティア奉仕活動をさせて頂きました。古森淳一でございます。初めてのバヌアツ共和国訪問。訪問前のイメージ以上に全てにおいては未開の国で貧しい生活をしている。しかし人々には笑顔が絶えない自然な美しい国と理解できました。

まず、首都のポートビラでさえ裸足の人々が半数近く見受けられました。タンナ島ではほとんどの大人子供達が裸足で生活しているのをみた時は驚きでした。家の作りもヤシの木とわらぶきだけで作られていました。生活水準が余りにも低いこの様な国が世界には在るという事を改めて実感致しました。滞在中も水不足にも遭遇し、私達日本人は全てが豊かな中で生活をしている事に感謝しなければと強く感じました。

無邪気な子供達の姿・瞳がキラキラ輝いていたのがとても印象的で、いまでも私の心に深く残っています。この子供達の未来に何か微力ではありますが、JDMの皆様と一緒に今後とも支援活動を続けていければと願っております。





技工士を始めて4年。ラボで過ごしたその時間は、あっという間でした。ある日、弊社社長が、以前参加したJDMの活動について話していた。歯科医療を受けられない島民の人達の為、無償で治療を行ったり、豊かな自然の中で、現地の子供達と触れ合ったり。それを聞き、すっかりその話に興味を持った私は、参加を決意しました。

実際に活動を始めると、島の気温が高いので、使用している材料の硬化が早く、普段よりも早い操作が求められます。石膏を印象に流す際も、バイブレーターが無い為、自分の手で振動を与えて注入し、慣れない動きに腕が攣

りそうになりました。電源も、大きな発電機が1台のみの為、診療所で電気を沢山使用すると、技工エリアのエンジンが動かなくなってしまうのです。

日本の環境とは違い、不便なことが多く、中々思うように作業が進みません。改めて、自分がいつもいる環境がいかにか恵まれているかがよく分かりました。

作業をしていると、島の人達がまじまじとこちらを見てきます。ニコッと笑うと、島の人たちも笑顔を返してくれました。子供達も好奇心旺盛で、石膏を練る私の周りに寄ってきます。目が合うと、「What's your name?」と聞いてきて、名前を答えると、何度も呼んでくれました。子供達の純粋な笑顔に、とても癒されました。

カオハガン島で過ごした5日間を経て、いかに私が力不足であるかがよく分かりました。技工士としての技量が足らず、上崎先生や、他の方々に沢山助けて頂きました。ありがとうございました。

今回のフィリピンでのボランティアを通じて、今までの仕事に対する意識を、ここで改めようと思います。大西さんの、プロ意識の高さに脱帽しました。JDMでの活動に参加させて頂いたおかげで、今までの私を見直すいいきっかけが出来ました。感謝しています。次回また参加させて頂く時は、必ず今よりもパワーアップしてきます！少しでも役に立てるよう、1日1日を大切に、自己鍛錬に使いたいと思います。JDMのスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

大野 綾子(歯科衛生士)

「Brush My Teeth everyday!」

初日の朝、診療の準備をしていると、外から開いている窓に顔をのぞかせ、欠損している歯のところへ指をさす二人の女性。ビサヤ語と英語まじりで「今日、義歯を作ってくれるの?」と話しかけてくれ、JDMメンバーが「Yes, 義歯を作ったらもっと美人になるわよ～」と答えると二人とも「キャッキヤ」と、とても嬉しそうにしている姿を見て、こんなにも楽しみにJDMを待っていたのか、私もがんばらなきゃ!と思いました。意気込んだものの、診療が始まるとまずは義歯の印象のラッシュにあたふた。スケーリングや充填、抜歯のアシスタントなどすべてが普段の診療とは違い、思うように動けない自分が情けなく思いました。しかし、そんなことを思っているヒマはなく、周りのメンバーに助けってもらいながら、流れに乗れるようになりま



した。

義歯作製のための良い印象がなかなか採得できずに、何度も取り直して良いものか考えていると「すぐに取り直して。今ここで妥協してはいけない」と習い、気が引き締まりました。「again!」「one more!」と何度言ったことでしょう。それでも島民の方は「OK! OK!」と再印象、再々印象を笑顔で承諾してくれました。その後、技工士さんの手にかかって出来上がったきれいな義歯をsetした女性が「good」と笑顔で私のところへ見せに来てくれました。

想像していた以上に口腔内はひどいカリエスや欠損歯が多く、カオハガン島の口腔状況を知ることができました。そんな中でも永久歯すべてカリエスフリーできれいな口腔内を保っている方が数名いました。聞くと1日3回食後に歯を磨いていると。これはJDMの活動で今まで築いてきたものと口腔内から感じとることができました。

学校での保健指導では紙芝居やハブラシソングなどを通じ、子供たちに少しでもブラッシングの習慣を身につけるきっかけになることが出来ればと思い臨みました。子供たちが口ずさむ歌詞にあるとおり毎日ブラッシングしてくれているかな・・・?

私にとってすべてがはじめての経験で、怒涛の3日間でしたがとても楽しく活動することができました。あっという間に診療時間の終わりが来て、もっとたくさんの患者さんを診たいという気持ちになりました。

JDMの皆さんが島民の方のことを第一に考えられていて、さらに新メンバーへもあたたかく接していただき、本当に学ぶことが多くありました。ありがとうございました。

準備不足なことがあり歯科衛生士として課題は残りましたが、次につながれたらと思います。

宮辻 幸枝(歯科衛生士)

「カオハガンでの活動を終えて」



JDMの活動は、昨年参加した友人から話を聞き、知ることになりました。私は旅をする事が好きであり、そこで自分の資格が活かせるならこんなに幸せなことはない!とすぐに参加させて頂くことを決意しました。

実際、島に到着してまず驚いたことは、今までに経験した事の無い環境でした。トイレやシャワーを含む水や電気について、島の人々の暮らしを見ながら色々と考えさせられることがあり、来客用として用意して頂いている有り難さを感じながら使用させて頂きました。その他、文化や暮らしの違いを肌で感じる貴重な経験となりました。

いざ診療が始まり、驚いたこともたくさんありました。いつもの日本での診療と同じように考えてはいけない…とわかってはいたものの、器具の扱い

方や患者さんへの接し方に最初は感覚が付いて行かず戸惑う事の連続でした。口腔内の状況にも戸惑うことが多く、日本では治療できるはずの歯をここでは抜歯しなければいけない、セメントで埋めるだけの対応をとるなど、心苦しく思う事も多々ありました。また、子供の口腔内を診させてもらうことが多かったのですが、カリエスの状態は酷く、残根状態で崩壊してしまっている所が多くあり、歯髄まで到達しているのかどうか…というカリエスもありました。しかし、「サキ?(痛い?)」と聞いてもほとんど全員の子が「痛くない。」と答えました。歯髄が壊死してしまうまでの間痛みは出なかったのか?痛みが出た場合どうするのか?または、そのときの痛みを我慢することに慣れてしまっているのか?ご飯を食べる時はどうしたのか?そんな疑問が浮かびましたが、言葉がわからず、聞く事が出来ませんでした。その様な状態で、処置をどうするか判断を自分一人ではすることができず、優先順位の付け方も分からず、教えて頂きながらでないと行動出来ませんでした。

カリエスだけでなく、歯石沈着の状態も酷いことがあり、全顎的に縁下まで及んでいる状態の口腔内にハンドスクレーパーで出来る範囲だけの除去。残っているのはわかっているが除去しきれない…しっかりと治療を受けてもらうことが出来たら…と考えることもありました。そんな中でも学ぶことは多く、優先順位の付け方や、永久歯をどう守るか、現在の口腔内からどう先のことを読み取るか、等様々なことを教えていただきました。また、エアーの代わりに空気入れを使う、枕代わりに印象材の入った袋を置く等…なるほど!と感動することもありました。今までの経験から生み出されたのであろう工夫に驚きました。「いつもと環境や状況が変われば、対応の仕方も工夫して変えなければいけない。」ということを学びました。診療では本当に自分の無力さを感じさせられました。

三日目は小学校に出向き、保健指導と検診をさせていただきました。保健指導は英語での歯磨きソングを皆で歌いましたが、終わった後もあちこちで歌を口ずさむ姿が見られ、やって良かった！と感動しました。今後もこの歌が、根付いてくれたら…と思います。保健指導を行うに当たっては、時には大変な思いもしましたが、本当に皆さんの協力があり、成し遂げることが出来ました。反省点も見付かり、また次に繋げられることが出来れば良いなと思いました。

初めての貴重な体験としては、染め出し後の海辺でのブラッシングです。一生懸命磨いて、「磨けたか見て！」と近寄ってくる子供達がとても可愛く、微笑ましかったです。中には、「学校に戻るよ」と言っても「まだ磨いていたい！」と止めない子もいました。

活動を通して一番感じたことは、島の皆さんがとても温かく、幸せそうということです。中でも子供達がとても可愛い！言葉が通じない中、名前を呼びながら「遊ぼう！」と寄ってきてくれる姿に心から笑顔になりました。

一人で飛び込んで行くにはとても不安がありましたが、経験豊富なドクターや衛生士や技工士の皆さん、年下ながらとてもしっかりとしたボランティアのメンバー全員に支えられた活動でした。そして、衛生士の経験として自分の財産になったと思います。やっぱり私はこの仕事が好きだ、次に繋げられるよう頑張ろう！という原動力にもなりました。本当に参加させて頂いたことに感謝致します。皆さん本当にありがとうございました。また、参加出来れば嬉しいです。

難波 智香(歯科衛生士)

カオハガン島活動に参加して

今回初参加で JDM としてカオハガン島に行かせていただきました。普段は一般歯科で、衛生士として働かせていただいています。

ずっと衛生士としてボランティアという経験はしてみたいと思っていました。

自分の中でいくつかの目標を立て、何か得れる事があればという思いでボランティアに望みました。

到着してから本当に自分の描いていた以上の事ばかりでした。

初日は全然なれず、冷たい水でのシャワー、ハエが飛んでいる中での食事、部屋には電気がないのでランプを灯し、普段の生活では味わえない環境の違いに正直不安でいっぱいでした。

メインの診療ではたくさんの島の方が来られました。患者さんとの会話がなかなかできなく、とまどいました。伝えたい事が伝わらない、聞きたい事が聞けないと困っていましたが、ジェスチャーなどで 伝わった時の感動は忘れられません！患者さんのほとんどは抜歯です。日本であればまだまだ残せる永久歯までも抜歯を希望される方も多くいました。日本では何かあればすぐに歯医者に行ける環境なので本当に恵まれていると感じました。

最後の日は島の子供たちと運動会をし、とても楽しく、たくさんの笑顔を見る事ができました。

終わってからは、青年達がギターを弾きながら日本の歌を歌ってくれました。サンセットを見ながらだったので、かなりロマンチックでした。

私はこの島に来て数えきれない程いろんな事を感じ得る事ができました。その中で一番感じた事は感謝の気持ちの大切さです。そんなことあたりまえの事だと思いますし、自分自身感謝できていると思っていました。

でも自分がどれだけできていなかったか反省でいっぱいです。

毎日当たり前のように食べている美味しいご飯、寝る家がある事、衛生士として働かせてもらっている事...

あたりまえなんて事はない。日本ではぜいたくな環境であるが、その事にありがたいと思う感謝する気持ちが大切だと今さらながら気付く事ができました。

夜は崎山さんから本当の感謝について教えて下さいました。



今回の活動を通して 衛生士としても人としても少しは成長できたような気がします。

沢田先生をはじめ JDM のメンバーの方は本当に素敵な方ばかりで解散する時はつらかったです。

すべての出会いに感謝です。

本当に良い経験をありがとうございました。



今回は初めて参加させて頂き、本当に素敵な JDM のスタッフの方々や、とてもシャイで可愛いカオハガン島の島の人たちに出会えた事、また短い期間ながら素晴らしい経験をする事が出来てとても感動しています。

人種や文化、習慣が変われば当たり前の事ですが、口腔内の環境も変わり治療方法も変わってくる。私は DH として、その中でも彼らの主訴や、長年の文化や風習は大事に守りながらの虫歯予防を一緒に考えることが重要だと強く思いました。けれども思うように会話が出来なくて、はがゆいときも多々ありましたが、強い気持ちがあれば必ず伝わる。そしてあらゆる手段で向こうもそれに応えようとしてくれる。

今回の活動ではいろんな事を学んだ気がします。でもそれは日本の歯科治療でも同じ

事が言えるんだと思います。人種や言葉、技術や環境は関係なく、相手を尊重して思いやりのある治療、その人にとっての幸せはどこにあるのかを考えられるような DH になりたいと思えるようになりました。

今回は本当に素敵な出会いと経験を与えて下さってありがとうございました。次に繋がる活動になりました。

矢川 美樹 (歯科衛生士)

カオハガンボランティアに参加して

今回、カオハガンのボランティアに初めて参加してすごく色々な事を感じました。まず、初めに感じたことはやはり島が綺麗な事。自然のままの状態があり、緑にしても海にしてもすごく綺麗で驚くほどでした。島のほとんどが緑で、木はたくさん綺麗な花を咲かせ、海は透き通るぐらいで潜らなくても魚を見ることができました。こんな島がまだあるのを嬉しく思いました。

次に感じたことは、日本が便利で安全な国だということです。蛇口をひねれば飲める水が出て、スイッチ一つで温かいお湯が出て、どこにも電気がついていて、24 時間活動したければ動ける環境があって、テレビもパソコンも携帯も繋がっていて、働く場所や何事もチャレンジできる環境、望めば色々なことができる。すごく贅沢な暮らしをしていると改めて実感しました。

ただ、産まれた場所が違うだけでこれだけでこれだけの可能性が違う。自分のしたい事ができるという環境に恵まれたことはすごく幸せなことなんだと実感しました。

次に、感じたのは今回参加したボランティアについてです。正直に何年か昔の日本の歯科治療を見てみたいでした。治療する場所もお金もないので、痛くなれば抜く。選択肢がなく、残すことのできる歯も抜いてしまうという、今の日本では考えられない事ばかりでした。正直、心が痛くなりました。天然の歯に優るものはない。私はこの言葉を大切に日常の仕事をしてきたものですから、今回のボランティアに参加し色々な事を考えることができました。後、小学校に保健指導をしに行ったのですが、子供達はすごく恐がって学校に登校しなかったのです。

子供達にとって私たちは怖い日本人という印象しかないのかとすごく切なくなりました。



今回のボランティア活動で私は色々な気持ちになりました。
切ない気持ち嬉しい気持ち、悲しい気持ち、相手の気持ちほんとうにどれもこれも全て勉強になりました。
最後になりましたが、今回1番勉強になったことは...1番嬉しかった事は、メンバーに出逢えた事です。
色々な人がいて、色々な環境で育ちいろんな経験をもったみんなに出逢えたから今回のボランティアがすごく勉強になる有意義な時間だったのだと思います。JDMのスタッフ、カオハガンの人々、いろんな人に出逢えて私は成長していくんだと感ずることができました。
これからは私が出来る事、一つでも多く増やしこれからの人生に役立てたいと思います。
みなさん、ほんとうにありがとうございました。

山岸 優子（歯科衛生士）

カオハガン島での活動に参加して



数年前に JDM のメンバーの方の活動報告を聞かせていただく機会がありました。その時の楽しそうに話をされる様子がとても印象的で忘れられず、いつか自分も参加したいと思っていました。

衛生士として5年目になった今、少しは役にたてるのではないかと思い参加を決意しました。

しかし、いざ参加が決まるといろんな事が不安になってきました。行ったことのない土地で、どんな様子で活動するのか想像もできず、自分に何ができるのだろうか、自分が参加することで周りの皆にかえって迷惑をかけてしまうのではないかともしました。

また、少し前に起こった台風により、近隣の島の被害が大きく報道されていたので、カオハガン島は大丈夫だと聞いていても、出発の前日は不安と緊張で眠れませんでした。

カオハガン島では、私は診療補助

と、学校検診の補助を行いました。限られた設備と材料という普段とはまったく違う環境の中でありましたが、これまでの JDM の活動により島内では効率良く診療を行うことができるシステムができあがっていました。期間中は、カオハガンの方だけでなく他の島からもたくさんの方が治療やクリーニング希望で列をつくっており、その姿を見たときはとても嬉しく、JDM の方々が時間をかけて築きあげてきたものの大きさに感動しました。

限られた期間、限られた設備の中での治療は抜歯と充填のどちらかしか選択肢がなく、日本だと残せる歯でも抜かなければいけないのは悲しかったです。検診では虫歯の多さに驚きでした。検診には来たが、治療に繋がらなかった子たちも多かったのも、歯磨き指導や歯の大切さをわかってもらうのはとても難しかったです。しかし、歯の大切さを伝える重要性を諦めてはいけない事だと強く思いました。これは日本でも同様で、日々の診療でうまく伝えられるようにしたいと思います。今回は初めての事ばかりで慌ただしく時間が過ぎてしまいました。また参加させて頂いたら、患者さん一人一人の思いやその土地の歯に対する考え方を理解したうえで、自分になにができるかをしっかり考え、治療にあたりたいと思います。

また、治療以外ではシュノーケリングをしたり散歩をしたりしました。その中でも特に、島民の方々との運動会がとても楽しかったです。カオハガン島で見ることのできた素晴らしい自然、島民の方々の笑顔は一生忘れません。この光景はいつまでも変わらないでいて欲しいと思います。

今回 JDM メンバーの一員として参加させて頂いたことを心から感謝します。沢田先生をはじめ JDM の皆様、そして支えて下さったたくさんの方々本当にありがとうございました。

「バヌアツから」

僕達人間が生きていく上で最も大切なこと。自分なりにちっぽけではあるが、今回の体験を通し分かったような気がした。人は、お金があればアクシデントなどを起こさない限り生きて行くことができる。しかし、お金には唯一買えないものがある。それは、心から笑うことができ、常に笑顔でいられること、つまり本当の幸せだ。バヌアツという国はお金があると言えないが、一つ断言できることがある。みんな笑顔であった。素直でとても凛凛しい顔だった。そこで自分なりに考えたが、日本などの先進国のように文明が発達していないからこそ争いが無いため、お互いに助け合いができる。

ONE FOR ALL, ALL FOR ONE! まさにこの精神だ。

だから、小学校の歯科検診に行った時、自分からみんなにかかわろうとすれば、びっくりしたことだが、「OH! You are my friend!」と言ってきて、みんなが必ず答えてくれるのだ。いろんな学校が周るにつれ、どんどん楽しくなって行き、その都度自分の中の積極性などが磨かれていき、成長できてきたと思う。

しかし、後進国の悲しい現実にも直面した。多くの子ども達が裸足で、勉強環境も完璧とは全くいえない。トイレも葉っぱで拭いていた。そして、一番驚いたのは医療状況。薬がないため、薬草を使っていた。日本ではありえないことだろう。もし、病院に行ったら薬じゃなくて葉っぱを渡されたところで、僕たちには何もできない。

今自分がどれだけ恵まれている環境にいるんだ! と感謝の気持ちが湧き、同時に切なさも湧いた。

一番印象に残ったのは、休み時間サッカーボール一つ持って外に出ると現地の子ども達がどんどん集まって来てくれ、英会話が全くできず、コミュニケーションを取れるか、とても不安であった自分でしたが、スポーツ一つでつながることができ、喜びと感動を覚えた。友達もたくさんでき、[MASA!] と慕ってくれた。

奇跡も起きた! いつもと同じく夕方、SAITOサッカー同好会+エリさんと遊んでおり、ふと思った、「ついに明日で最後だからみんななどのお別れの言葉を考えておこうか・・・」と思った矢先に、同じ時間から火山に行くことが決まったのだ。みんなに何も言えずにお別れすることになったのだ、正直泣きそうであった。せめてでも、と思い手紙を古森さんに英語で教えて頂き書いて、となりに住んでいる同好会のメンバーに渡し、みんなに見せてもらっておこう。

そして次の日、手紙を渡しに行こうとした時、雨が降ったのだ! 火山行きは中止し、複雑な気持ちもあったが、また同好会のメンバーとサッカーなどして遊べたのだ。それだけで満足であった、手紙はボロボロに破った。そしてここからまた奇跡・・・。

雨が止んだのだ。再び火山へ行くことになった。虹がとてもきれいだった。みんなに、お別れのあいさつも終え、いざ火山へ! 気分もアゲアゲ↑↑、しかし、自分はトラックの荷台に乗っていて、また雨が降り出したのだ。カップを着ても意味がなくずぶ濡れ。寒くてたまらなかった。相当ハードな車の旅だったが火山の神秘さ、人間と言うのは宇宙や自然から見ればとても弱い生物だなと感じた。

そしてついに帰国と思いきや! バヌアツエアーがエンジントラブル。ほんと、最後までやってくれる。(笑) それが原因のため、バヌアツでまた一泊だけなのがいいが、飛行機に乗れず、ニュージーランドで2泊。2日目はミニ観光ができたが、真冬のため寒かった。

最後に色々なハプニングもあったが、(パスポートを飛行機に忘れたり、香港で買った人形から綿が出ていたり・・・) 誰も怪我が無く良かったと思う。

今回JDMという主旨の活動であったが、自分自身大きな意味で成長することができた。メンバーのみなさん、ありがとうございました。

そして、大金を払ってでも行かせてくれた両親、本当にありがとうございました。





17 年もの間、JDMは歯科ボランティア活動が続いているとうかがいました。どんな事柄もそうですが、継続することは並大抵の努力では出来ないことです。継続する中で、多くの問題や課題にぶち当たりながら改善、改良、問題解決をし続けてきたことと思います。その結果、今、島民の皆さんに受け入れていただき、信頼を得て活動をさせていただけるのだと痛感しました。島民の皆さんの純粋な心に癒されながら、現在の日本の在り方について、そして今後の日本の向かうべき方向について、今一度立ち止まり考える良い機会をいただきましたことに感謝いたしております。写真を見ても話を聞いても、それは全てのことのほんの一部にすぎません。実際の体験の中でしか体感できないことがたくさんあります。言語化してしまうと、それは本来のそれではなくなってしまうことでしょう。是非、次はあなたが体感してください。出会った全ての人に感謝を込めて・・・。

富本 恵利（ボランティア）

ヴァヌアツでのボランティア活動

今回のバヌアツでのボランティアを通して沢山の新しい経験と成長が自分自身できたと思います。ボランティアの経験自体が初めての経験で、正直無縁でした。でも、父が行って来い！と言ったので、少し興味もあったし大学生活ラスト一年何かしたいと思っていたので参加しました。歯の知識の全くない私が役に立つのかな？とはじめは不安でしたが、みんなのサポートもあり歯医者さんでアルバイトできるほどになった気がします(笑)。でも、やっぱり最初は覚えることが沢山あり苦戦しました。タンナでの生活は想像していたよりも凄い環境で驚きが沢山ありました。文化の違いがすごくて、自分が日本でどれだけ裕福な生活をしているかしみじみ感じました。学校検診では、毎回子どもたちの最高の笑顔に癒されてたまらなく可愛かったです。しかし、今回のボランティアを通して現地の人はみんなフレンドリーに話しかけてくれるのに自分の英語力の無さでコミュニケーションがうまく取れなかったことが残念でした。コミュニケーションをもっと取れるように勉強しようと思いました。帰りの飛行機はトラブル続きでなかなか帰国できず大変でしたが、ニュージーランドで2泊することができ、おいしいものも食べることができ幸せでした。バヌアツでの1週間ちょっとのボランティア活動で、JDMの仲間と共に行動して本当に沢山勉強になりました。今回一番心に残ってるのは、子どもたちの笑顔や喜んでる姿です。ボランティアは、一人一人やるのがたくさんあり、うまいこと時間を使って行動することが大切だと思いました。日本に帰ったら、感謝の気持ちを大切にいろんなことに頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。



辻本 供代（ボランティア）

バヌアツ島に参加して



蛇口をひねれば水が出る。毎日お風呂に入るのが当たり前。スイッチ一つでご飯が炊け温かいもの冷たいものが何でも食べられる。先進国での水や電気のありがたさをひしひしと感じました。殆どの人が裸足。夜は水が止まり朝なかなか出ない。水もタンクに貯めた雨水。シャワーは勿論髪を洗うのも水。夜は薄暗い電気。このような環境の中で30年間も活動を続けてこられた沢田先生には尊敬の一語につきます。継続して参加される方を育てるのはご苦労が多いことでしょうか？歯磨きの習慣のない国に歯科教育をされ住民に歯科医療の大切さを教えるのは大変だったと思います。私は歯科衛生士の資格もなく積極的に現地の人とのコミュニケーションもとれなく、食事の準備をするだけでのボランティアでした。

夜は曇りか雨で期待していた満天の星空を見ることが出来なく、最後の夜に南十字星を見ることができました。子供達の笑顔とキラキラした瞳は素晴らしく純粋さを感じました。

最終日に沢田先生がヤスール火山に連れて行って下さいました。雨だと道がぬかるんで行けないとか？ 予定より2時間余り遅れて嵐の中やっと着きました。凄い爆音と共にマグマが真直ぐに吹き上げる瞬間を目の当たりに見て感激し、何度も来られている沢田先生が初めて参加した4人に見せてやりたいとお心遣いには感謝です。

関根先生は真面目を絵に描いた様な方でした。歯科衛生士の大西さんには教えられ、小西さんは決して前に出ない、いつも笑顔でフル活動でした。大学生の富本恵莉ちゃんは若いのに細かい心遣いをして下さり随分助けて頂きました。中学生の勝一君は活動の後、現地の子供達と暗くなるまでサッカーをして遊んであげ、あどけない笑顔に私は癒されました。

私は初めての参加で戸惑うことばかりでしたが、皆さんの助けもありとても良い経験をさせていただきました。この経験を今後の生活に活かし又機会があれば参加したいと思います。

中島 花世（歯科衛生士）

カオハガン島のボランティアに参加して

参加するまで毎日、自分に何が出来のたろう、ただ行ってみないと分からないし、少しでも島の人たちの役に立てればという思いで参加しました。

実際に口腔内を見て小さい子供～大人までC4がとても多いことに驚きました。また島の人たちも抜歯を希望する方がとても多く、日本なら根管治療をして補綴を入れてという流れがありますが、痛み＝抜歯という当たり前にとても悲しみがありました。

2日目、学校検診の後、子供たちがたくさん来てパスタをさせて頂く機会を与えて頂き、外で衛生士3人で子供たちの守れる歯は抜歯せず守ろうという思いでパスタをしたのは、抜歯が多い中で衛生士としてとても心に残っています。

診療のアシスト面では、恐怖感や不安感の時に私の手をギュッと握って必死に訴えておられるのが分かり、こちら言葉は通じなくても、表情やジェスチャ



一で安心して頂けることも多くあり、日本でも当たり前に行うのではなくて、もう一度、原点に戻り患者さんの気持ちになってみようと思いました。

最後になりましたが、この JDM ボランティアに参加出来たのは、沢田先生をはじめ、JDM の皆さん、後押しをしてくれた両親、家族、友人、勤務先の院長やスタッフのお陰だと思っています。

そして最後まで励まし合い悩みながら 5 日間を共にしたメンバーのお陰だと思います。

参加出来て、次の機会の課題も見えました。

本当にありがとうございました。

佐藤 由佳（歯科衛生士）

カオハガン島のボランティアに参加して



私がボランティアに参加させて頂いたのは、勤務先のドクターからカオハガン島の話聞いたのがきっかけです。元々海外旅行が好きなので、カオハガン島ってどんなところだろう、歯科衛生士の資格を生かして海外でボランティアするのは面白そう、そんな単純な理由から参加に至りました。

スーツケースを持たずに国内を出るなんて初めてですし、お湯が出ないところにも行ったことはありません。ビサヤ語も話せませんし、始めはとにかく不安なことばかりでした。

しかし、カオハガンの島民の優しさや子供たちの笑顔に触れると、不安な気持ちが嘘のように吹っ飛びました。

診療の方は大盛況で、歯科がこんなにも必要とされているとは思いませんでした。カリエスの多さには驚きましたが、一人でも多く充填してあげたいという思いで、精一杯努力しました。

一番大変だったのは、歯磨きの大切さを伝える衛生講話でした。日本語を英語に直すのも大変でしたし、短い時間で仕上げるのは決して容易ではありませんでした。私はスピーカーの役を引き受けたのですが、学校の先生にサポートして頂きなんとか終わることができました。先生には本当に感謝しています。もう少し事前に準備ができていたら、もっと子供たちの為になったはず、それだけが心残りです。これについては不完全燃焼でしたが、それも含めて素晴らしい時間を過ごせたと思います。

ゆっくり時間をかけて食べる食事、島民とのお話、たこ焼き&マンゴーパーティ、どれをとっても日本では味わえない貴重な時間でした。一つの目標に対して共に頑張った仲間のことは、一生忘れないと思います。

国際交流

八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流

「バヌアツ共和国との文化交流から学ぶ」

～レナケル小学校と西山本小学校・南山本小学校との文化交流の取り組みについて～

平成 26 年 5 月 津崎 恵子

沢田先生との出会い

私が通う沢田歯科の院長である沢田先生と学校現場や子ども達の様子を話す中で、バヌアツ共和国やフィリピンの子どものためにボランティア活動をしていることを知った。診療後のほんの数分の会話を重ねていく中で共感する事が多く、遠い国「バヌアツ」へ向けて大きな夢が広がっていく予感がした。歯科医療活動や歯磨き指導と共に、多様な悩みを抱えている身近な青少年達をボランティア活動に参加させるという取り組みを長年にわたって続けておられ、日本の青少年の健全な育成を目指しておられるという。国を離れての現地での貴重な体験やボランティアに参加した子ども達の様子などの話をもっと詳しく聞きたいと思い、6月に西山本小学校教職員のための人権教育研修会に講師として来ていただいた。その活動内容に共感し、子ども達にも「国際理解」の分野で何かできることはないか・・・というのがこの文化交流の始まりである。



平成 18 年 5 月からいよいよ具体的に交流がスタート

当時私は5年生の担任であったので6年生の担任と話し合いながら活動を進めた。この取り組みを子ども達に話すと「それ、どこの国？」「どんな所？」などの質問攻めにあい、まずは「言葉での交流は難しい。」ということをお彼らに伝えた。では、どんなことで交流するのか・・・？学級で話し合いをし「絵画ならいける！」ということになった。

この時期クラスにアメリカから短期留学の男の子が在籍しており彼の意見がたいへん参考になった。早速6年生は日本文化のひとつである「墨絵」5年生は「折り紙」を仕上げ沢田先生に託した。

7月、バヌアツから帰国された沢田先生から大きくて分厚い茶封筒を頂いた。「絵や折り紙をありがとう。」という簡単な全体へのお手紙だろう・・・と思っていた子ども達はその封筒の中身を知って思わず歓声をあげた。そこには墨絵を描いた6年生に対しバヌアツの子ども一人ひとりが心をこめて絵とメッセージをしたためてくれていた。私たち教職員もバヌアツの子ども達の熱い思いに感激し、ここから本格的な交流が始まった。

11月の日曜参観にはバヌアツの写真、絵、メッセージを掲示し保護者へもこの取り組みを発信した。

12月、沢田先生から「こいのぼり交流」の提案をいただき、5、6年担任で準備を進めた。一度に全員が描けないので授業の合間をぬって各自がウロコ一枚を受け持ち仕上げていった。4メートルのこいのぼりのウロコが全て埋まったのは6年生が卒業を控えた2月末だった。

平成 19 年 4 月、私が担任をしていた5年生が新6年生となりバヌアツとの交流を引き継いだ。



昨年度描いたこいのぼりの仕上げをし、6月に沢田先生に託した。子ども達の思いが詰まったこいのぼりをバヌア

ツへ届けていただくために。

9 月、沢田先生に授業をしていただき、バヌアツ共和国のことや、現地でのボランティア活動の様子を知った。また、現地の子供たちが初めて使った絵具で描いたこいのぼりを先生からいただき、運動場のポールに掲げて交流の手ごたえを感じた。明るく美しい色彩でのびのびと描かれたバヌアツのこいのぼりは西山本の校庭で風を受けて元気に泳ぎだした。運動会当日バックネットの高い位置にこいのぼりを掲げ、校長が全児童と保護者に紹介したことでこの取り組みを知る保護者が少しずつ増えていった。

11 月の日曜参観（人権学習）で授業「バヌアツのことをもっと知ろう」を行った。事前にバヌアツについて調べ学習を進めていく中、パソコンや本などからは普段の現地の様子がなかなかつかめず、沢田先生には度々 FAX や電話で質問し詳しい情報を提供していただいた。「世界で一番幸せな国バヌアツ」とメディアで紹介されたことを課題の一つに取り上げ「幸せとは何か」を追求していく授業が始まった。参観に来ていた保護者も一緒に「幸せ」について考えた。

1 月沢田先生に第 2 回目の授業をしていただいた。テーマは「本当の幸せとは何だろう？」である。

NHK ラジオ深夜便で放送された沢田先生の生き方を聴き、先生とのうちとけた交流の中で子供達は「幸せ」とは便利で物質的に豊かな環境の中にだけ存在するものではないと気付いていった。美しい自然、人々の笑顔、感謝の気持ち、支え合う仲間…。自分たちを取り巻く環境とはあまりに異なるバヌアツの人々がグッと身近な存在になったようである。授業の後の給食のカレーライスで沢田先生と共に楽しくいただき普段着の会話に花が咲いた。また、子供達は今まで自分たちに関わっていただいたお礼にと、先生に歌のプレゼントを用意していた。かなり前からバヌアツの国歌をリコーダーで練習をしていたのである。音楽室に先生を招き、「ユーミン」を演奏し音楽会で歌った「with you smile」を聴いていただいた。このバヌアツ国歌を現地での伴奏に使っていただけたらと思い CD をお渡しした。

子供達の卒業が迫ってきた 2 月。最後の文化交流として「カルタ」を作ることにした。大きめの厚紙にそれぞれ絵と単語をかく。単語は英語と日本語（ローマ字）で表し、遊びながら少しでも日本語に興味を持ってくれればと思う。子供達は和英辞書を片手に、どういう内容にすればバヌアツで興味を持ってくれるか迷いながら仕上げていった。このカルタも沢田先生にお願いしてバヌアツ行きの荷物の一つに加えていただくことになった。

6 年 児童感想文：1 月 23 日沢田先生の授業を受けて



今日、沢田先生のバヌアツの話を聞いて、チームワークというものを改めて見直しました。

テープに録音されているのを聞いて、バヌアツの子供達はたくさんの物を再利用していることがわかりました。バヌアツの子はサッカーボールをもらった時、自分だったらすぐに使うけど、大事に持っていてなかなか使わず、本当にものを大切にするんだなと思いました。

最近、地球温暖化のせいで海面が上昇し、海岸に住んでいる人に被害が及び、疎開をしている人もいて、何も悪いことをしていないのに、かわいそうだなあとと思いました。さらにサイクロンなどの災害により本当に苦しんでいると思います。しかし、そういう苦しいことをみんなで乗り越える

から、世界で一番幸せな国なんだと、ぼくは思います。バヌアツの人たちは、沢田先生が帰る時、いつまでも手を振って最後まで見守っていてすごく心が清らかなんだなあと、ぼくもそんな人間になりたいと思いました。今日、沢田先生の話を聞いて、先生は今までにいろいろな災難にあったけど、全部乗り越えてきて立派と思いました。また、「人は生かされている」という言葉を聞いて、ぼくはこれからもっともって命を大事にして、みんなと助け合って生きていきたいと改めて思いました。沢田先生と出会えてよかったと思いました。（男子）

沢田先生に会ってお話を聞くのは二回目、今日はラジオで沢田先生のことやバヌアツのことがもっとよく知れたと思います。今、地球温暖化で、「しあわせの島バヌアツ」の自然が失われていることも、いろいろと聞きました。バヌアツは、物も少なく不自由な生活なのになぜ一番幸せな国？と思いました。でも沢田先生のお話を聞いていとなるほどと思いました。バヌアツは物がない、でも物がないからこそ皆で助け合っているのだから幸せなのではないかと思いました。日本やアメリカなどは文明が発達しすぎて逆に家族と触れ合うことがないなどであまり幸せではないのかもしれないと思いました。

学校に行けず不登校でいる子をバヌアツへ一緒に連れて行って、そこでバヌアツの良さやバヌアツにしかないものを見て感じてもらったのだと沢田先生が言っていました。バヌアツという国を知らない人はたくさんいると思います。でも沢田先生の話を聞いていると、もっともってたくさんの人に「バヌアツ共和国」のことを知ってもらいたいと思いました。沢田先生は「お前はまだやることがあるから生きろ。」と言われ今の仕事をしているんだと思います。バヌアツの交流は最後だけど、今の 5 年生にもいろいろと教えてあげてほしいです。（女子）

今日 4 時間目に沢田先生がバヌアツの話をしに来てくれました。はじめはラジオを聞かせてもらいました。そして、「世界で一番幸せな国はバヌアツ共和国。日本は 95 位」と聞いて改めて、幸せとは何かを考えました。沢田先生も言っていたけど、確かに日本は何でも手に入るしお金があれば ok だ。けれどそれは幸せとは違います。文明ばかりに頼っているのが今の私たちです。バヌアツは仲間で力を合わせて何事もし、物のありがたみが分かるからこそ世界で一番幸せな国だと私は思います。次に先生の話で学校のことを聞いて驚いたことがあります。それは遠くの方から、学校で勉強したいという気持ちで来ているということです。また機会があれば沢田先生にいろいろ話を聞き、一度バヌアツへ行ってみたいと思いました。（女子）

2 年間の取り組みを通して、子ども達の心の中には、まだ見ぬ遠い国「バヌアツ」への熱い思いが育ちつつある。友達同士、当たり前のようにバヌアツの事を口にするし国歌のメロディーも口ずさみながら掃除をしている。「どう生きるか？本当の幸せとは？」を考える機会に恵まれ自己を見つめることができたバヌアツとの文化交流。人権教育と大上段に構えるのではなく、心の持ち方、相手を思いやる気持ち、周りへの感謝……。今、自分が生かされているのだということを 12 歳なりに考えさせたかった担任の思いと沢田先生のボランティア活動の理念とが縁あって「バヌアツ共和国との文化交流」という形で実現したことに心より感謝したいと思った。



3 月 18 日、卒業式。お世話になった沢田先生も式に参列され、子ども達の巣立ちを見守って下さった。「別れの言葉」の中にもバヌアツ共和国との交流の思い出を盛り込んだ。自分たちの身近な問題として「本当の幸せ」の意味を考え、悩み、自分なりに答えを見つけて晴れやかに卒業していった。

平成 20 年度

- ・ 5 月 バヌアツへ送る凧の絵を描く。
- ・ 6 月 沢田先生の授業（第 1 回目）
バヌアツ共和国の様子やボランティア活動についての授業（パソコン映像）
沢田先生から全校児童に歯ブラシがプレゼントされる。

学級通信「あおぞら」No.10 より 児童感想文

今日、4 時間目の授業をうけてバヌアツのことがよくわかりました。ぼくは、バヌアツのバンジージャンプはやりたくないです。おくびょう者といわれてもやりたくないです。だってゴムじゃなく木のつるだから切れたら死ぬからいやです。だけどバヌアツの人は、やっているからすごいなあーと思いました。一度だけバヌアツのお料理を食べたいです。バヌアツにもお菓子があることもわかりました。バヌアツの人みたいに虫歯にならないようにちゃんとご飯を食べたら歯を磨くようにします。一回でもバヌアツに行きたいです。バヌアツの人が凧に絵を描いてくれてその凧が学校に届くのが楽しみです。バヌアツの人たちの髪の毛はちりちりで鉛筆がさせるから便利だなーと思いました。今日はバヌアツのことを教えてくれてありがとうございました。歯ブラシもありがとうございました。（男子）

沢田先生はバヌアツとフィリピンの二つの国へ行ったらっしゃると知りました。今回初めてバヌアツのことを教わりました。フィリピンは聞いたことがありますが、先生のように深くは知りません。だからあまり分らなかったのですが、先生に教えてもらったのでよくわかりました。二つの国へ行ったらっしゃるのはすごいし、うらやましいです。幸せな国で、幸せな時間を過ごせる、すばらしいことだと思います。それに、歯の治療をして人を救うなんて、すばらしいと思います。わたしも少し手伝いたいと思いました。

一番幸せな国だと思うところ、それは先生が見せてくれた数々の写真の中にありました。バヌアツの子ども達の笑顔です。どの写真も、どの子ども達も嬉しそうな顔をしていました。でも最近地球温暖化のせいで、島が沈んでしていると知りました。バヌアツの人々は何もしていないのにかわいそうだと思います。（女子）
バヌアツの子ども達との交流、沢田先生との交流が今後も続きます。この取り組みを通じて子ども達はどのようなことを考え、何を学んでいくのか……。単なる興味本位に終わることのないよう今後もきちっと取り組ませたい。

- ・ 7 月 八尾市教育研究集会でこの取り組みを発表。多くの教職員から心温まる感想をいただく。
- ・ 10 月 沢田先生の授業（第 2 回目）凧揚げ大会
DVD（7 月のバヌアツでの医療ボランティア活動やれなケル小学校の子どもたちの様子）を用いて授業。
現地の子どもたちが、凧に絵を描いたり凧を揚げたりしている様子を見る。

午後、バヌアツから届いた風で、先生と支援学級の子どもたちと共に風揚げ大会をする。

学級通信「あおぞら」No.20 より「バヌアツのことをもっと知ろう」

沢田先生の2回目の授業が行われました。診療所の休診日にあたるこの日、早くから本校にきていろいろと準備をされていました。沢田先生は子どもたちが大好きでこの日を楽しみにしておられたようです。スクリーンに映し出された現地での医療活動や子どもたちが描いて送った絵を楽しそうに掲げている様子を見て「あっ、あのお城、〇〇君が描いた絵や!」と叫びながら、確かに遥かかなたのバヌアツに届けていただいた!という実感がわいてきたようでした。また、世界で一番近づける火山の迫力ある噴火の様子に、子どもたちは「ウォーッ!!」と腹の底から歓声をあげ一心に見入っていました。昼は灰色一色の噴煙ですが夜は赤々と火を噴くヤスール火山の二つの顔を子どもたちはどう受け止めたのでしょうか。この間、子どもたちはきっとバヌアツに身をおいて大自然を楽しんでいたのではないかと思います。遠い遠いまだ見ぬ国「バヌアツ」へ私も子どもたちと行ってみたいと思いました。前回同様、沢田先生を囲んでのランチタイム。食事を共にするというのはほんとにいいですね。仲良しになる絶好の機会です。今回は2組で食べていただきましたが、一緒に来られた理事の栗山さんは我がクラスで・・・ということでこれまたクラスが盛り上がりました。

今回の文化交流も子どもたちにとって思い出深いものになったのではないかと思います。沢田先生を囲んでみんなで記念撮影をパチリ!次回が楽しみです。

- ・11月 沢田先生のボランティアの記事(毎日新聞)を使つての授業
ミニ感想を書き先生への手紙として送る。

学級通信「あおぞら」No.24 より あっ!沢田先生が載ってる!!

21日付の毎日新聞大阪版に「感動を与え合い、自分を磨く場」というタイトルで、ノンフィクション作家の目を通しての沢田先生のバヌアツ・フィリピンでのボランティア医療活動が紹介されていました。早速この記事を印刷して子どもたちに配り、ショートタイムの授業をしました。バヌアツの子どもたちと交流の橋渡しをして下さる沢田先生ってどんな人なの?学期に1回の出張授業でお会いするだけ。給食も共にしますが本来はどのような医療ボランティア活動をされているのか……。今回の新聞記事を教材に、沢田先生の思いや生き方をみんなで考えてみました。子どもたちは静かに真剣に記事を読みすすめ、先生の言葉に驚いたり感動したり……。

児童感想

- ・沢田先生はバヌアツの人を本当に愛しているような気持ちが伝わりました。
- ・4回も死にそんな思いをしたから、ボランティア活動をするようになったときいてびっくりしました。
- ・バヌアツやフィリピンで治療を続ける先生にすごくあこがれます。先生のようにになりたい。
- ・前に聞いた話以外のことを新聞で読み、バヌアツの人や沢田先生についてもっと知ることができました。
- ・バヌアツでの医療ボランティアはふつうと思っていたけど記事をみてよほどすごいことだと思いました。
- ・沢田先生はかっこいいと思いました。自分もバヌアツへ行きたいです。
- ・最後の沢田先生のセリフ「人と人との関係で大切なことはお互いに感動を与えあうこと」に感動した。
- ・私も大人になったら子どもや困っている人を助けたいです。
- ・沢田先生が帰るとき、島民は泣いて見送ってくれるっていいなあと思いました。
- ・死にそうになって、人のために頑張ろうと思う先生の姿に感動しました。特別な技術や資格がなくても、その気になれば、他の人を救うことができると思うと、沢田先生たちはすごいなあと思いました。
- ・沢田先生はとても苦しい思いをしているのにバヌアツの人々を助けるということにとっても感動しました。
- ・記事を読んで感動したことは、お互いに感動を与えあうことと、自然に涙が出て、また来たいという気持ちになる、この二つです。
- ・これからも、体力が限界になるまでがんばってください。
- ・25年くらい前からバヌアツに訪問していると知り、おどろきました。フィリピンにも行っていて大変だろうと思います。その大変なかで、この西山本小学校に来ていただいている沢田先生にはとても感謝しています。三学期、先生のお話を聞くのを楽しみにしています。

以上は子どもたちの一言感想です。いつも言っていますように、「交流」が単なる手紙や物の交換だけに終わることなく、そこにかかわっている人々の思いや生き方を学ばなければ、子どもたちの心を耕すことにはならないような気がします。これから思春期を迎える子どもたちには、「一生懸命」生きている人達を身近に感じさせることによって、これからの自分の生き方について考える「栄養剤」であつたらいいなと考えています。そして、作文や感想文の中だけで素晴らしい言葉を並べるだけでなく「本物」の人権感覚をしっかりと身に付け、常に、自分はどうあるべきか……ということを考えられる子になってほしいと願っています。

- ・12月 羽子板に絵を描く(来年度の取り組みにつなげて)

- ・1月 沢田先生の授業（第3回目）保護者も参加
今年度のまとめの授業として、特に青少年育成にかかわるバヌアツでのボランティア活動についての話を聞く。
ボランティア活動に参加した青年の感想文を通して「私たちにとって大切なことはなんだろう？」を考えていく。

学級通信「あおぞら」№29 より

第3回目の沢田先生の授業が行われました。今回は今までのような、美しいバヌアツの映像は無です。

今回のお話は子どもたちには少し難しいかなと思いましたが、敢えてこのテーマにさせていただきました。中学生の時ひきこもりになり高校も入学したものの1年生の2学期で中退し、目的もなくゲームに心のよりどころを求めている「新井さん」の体験談が教材でした。新井さんが、何となくバヌアツのボランティア活動に参加することとなり、沢田先生らと共に10日間を現地で過ごす中で次第に自分の意識が変わっていく……。帰国してからは、自分には仲間がいること、自分は生かされていることなどに気づき音楽大学に合格するまでのことを、新井さん自ら書いた文から学びました。

子どもたちの書いた感想文はなかなか読みごたえのあるもので、近々これを沢田先生にお渡しする予定です。今は難しいかもしれないけれどいつかきっと、こういう授業の中の一つでも「ああ、こういうことやってんなあ。」と思いだしてくれることを信じてこれからも頑張ろうと思います。**今、バヌアツへ送る羽子板の絵を描いています。**

平成21年度

昨年度に引き続き6年生を担当することになりこの取り組みをもう一年させていただく機会を与えられたことに感謝しながらのスタートだった。昨年度は、凧やサイコロ、羽子板など、自分たちの作品を通して心のメッセージを伝えることが多かった。6年生になった子どもたちに、更に何を学ばせるか……。ということが課題となった。今年度は自分自身を見つめ直し、何が大切なのかを見抜く力をつけさせたい。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して「自分たちはどう生きるべきか」ということを考えさせたかった。沢田先生の生きざまから何かを感じ取ってほしいと思い、今年度は学期に一回ごとの授業をお願いした。パソコンによる映像などは最小限にさせていただいた。ボランティアを始めたきっかけ、挫折感を味わった頃、感動で胸が熱くなったとき、「引きこもり」や「いじめ」にあった子どもたちと共にバヌアツの夜空を眺めて語り合ったとき……。数々の体験談をシャワーのように子どもたちに浴びせてほしいとお願いした。教科学習の定着は言うまでもないがいろいろな人々の生き方から学ぶということはそれ以上に大切ではないかと考えている。やがて卒業していく子どもたちの心がしっかりと耕されることを期待しつつの1年が始まった。

6月 沢田先生の授業

「言葉の通じない、文化の違う人たちとの交流で大切なことは何だろう」
相手を理解するとはどういうことか。どう心を通わせればよいのか。自分に欠けているものは何だろう。言葉が通じなくても伝えることができること……。たくさんの課題が見えてきた。授業では、
沢田先生が20年以上前に初めて、独立間もないバヌアツ共和国を訪れた時の話を聞かせていただいた。

「あまりにも文化の違う国にカルチャーショックを受けました。自分たちが何をしにバヌアツへ来たのか、なかなか理解してもらえず冷たい視線を浴びました。しかし、現地の人たちと同じ目線で向き合い、身振り手振りの会話で地道にこつこつと活動を続けました。毎年行く中で、現地の人たちは次第に心を開き打ち解けてきてくれました。きれいに治った歯でしっかり噛めるようになったととても喜んでくれています。お互いに相手のことを思いやると心を分かち合える。言葉はわからないけど気持ちは相手にも伝わります。人間として当たり前のことですね。ここから友情が芽生えるんだと思います……。」

友情が芽生える……。子どもたちは、遠いバヌアツの話から次第に自分たちの問題として捉えられる友情についての話になるにつれ、沢田先生の目を見つめながら真剣になってきた。今回、彼らは何を感じ、どんなことを思ったのか……。

児童の感想

6月10日に沢田先生が来ました。先生が来てまず、今までのおさらいをしました。その映像に映っていた写真はみんな笑顔で生き生きとしていました。その笑顔を見ると、なんだかこっちまでうれしくなってきました。病院が少なく甘いものが好きらしいので、とても歯がひどくぼろぼろになっていたのには、改めておどろいてしまいました。そんな人たちを、治療するなんてすごいと感動してしまいました。その話が終わって次は沢田先生が「初めてバヌアツに行った時」などの話をしてくれました。

先生が初めてバヌアツにいった時、バヌアツの島の人は、とても冷たい目で先生を見ていたけど先生が一生けんめいやると、みんなも沢田先生のことを信頼したようでした。沢田先生はバヌアツでロウソクやランプで生活して、とても大変だったと思いました。また、言葉がわからなかったり、水も自然のものしかなかったり、マラリアで死んでしまう子も多く、それも苦勞の一つだったと思いました。でも沢田先生は、同じ目線で会話や治療をしたり、

相手を思いやりたりして、とてもえらいと思いました。えらいと思ったことはもうひとつあって、人や世のためにボランティアをして、人の心を変えたことです。このことから私が思ったことは、何でも熱心にがんばってすると必ず思いは伝わるということです。今日は、いろいろ教えてくださってありがとうございました。次に来られる時がとても楽しみです。(女子)

11月 日曜参観での授業 **バヌアツに鉛筆を送ろう！！**

子どもたちが取り組んでいることを保護者にも理解していただくため沢田先生に日曜参観授業をしていただいた。また、2学期は自分たちで出来ることとして、「バヌアツに鉛筆を贈ろう」というボランティア活動をしようということになった。全校への発信の仕方をみんなで話し合い、グループに分かれてポスターやエンピツを入れる容器を製作し1年から6年までの各クラスに設置した。児童集会で全校に呼びかけ1234本の鉛筆が集まった。自分たちが誰かの役に立っている、という充実した取り組みだった。参観授業のあと鉛筆の贈呈式を行い、沢田先生が、確かにバヌアツに届けてくださるということを約束され、子どもたちはそれぞれの思いをバヌアツに馳せた。冷たい風が初冬を思わせる中、バヌアツの子どもたちが描いた羽子板で先生を交えて羽根つき大会をした。保護者も参加されあちこちで歓声が上がった楽しいひと時を過ごすことができた。

実際に交流をしているタンナ島の子ども達の生活の様子は沢田先生に毎回映像で見せていただいている。子どもたちは遥か彼方のバヌアツをすぐお隣の国のような感覚で、自分たちの取り組みをつながけながら見ているような感じである。全く異なる文化の子ども達に思いを馳せながら、自分たちの取り組みがバヌアツの子どもたちに少しでも役立っている・・・という確認もしているようである。私たちと比べればタンナ島はほんとに不便で生活は厳しく暮らしは大変だと思うが「世界で一番幸せな国・バヌアツ」という意味を考えながら、引き続きエンピツボランティアを続けていきたいと考えている。子どもたちが描いた羽子板でラナケル小学校の子どもたちが羽根つきをし、向こうの子どもたちが描いた羽子板で、今また本校の運動場で沢田先生と一緒に羽根つきを楽しむ……。会ったことも話したこともないけれど、目には見えない不思議なつながりを感じる。

歴史で学習した朝鮮通信使の真文役である雨森芳洲の言葉に「欺かず争わず誠信の交わり」というのがある。どんなときにおいても相手の立場に立って誠実でまごころを込めて事を行うことの大切さを説いたものである。バヌアツとの取り組みも根底にあるものは同じであるということ子どもたちは気づき始めているようである。子どもたちの成長過程の大切な根幹部分をこの小学校の時期にしっかり根を張らせたいと思っている。この学習をしたから〇〇が身につくというものではないが、卒業までの間、コツコツと地道に人としてどうあるべきかを子どもたちにわかりやすく、時には厳しく話していきたいと考えている。

1月 最後の授業

卒業を控えた子どもたちは、沢田先生の体験談を真剣なまなざしで聞き入っていた。コツコツと長年かけて取り組んでこられた沢田先生のボランティア活動から、本当に学ぶべきことは「自分はまわりの人々や自然によって生かされ感謝の心を失わず、素晴らしい出会いに感性を磨きこれからどう生きていくか」ということではないだろうか。子どもたちの最後の感想文では、それぞれが自分を見つめ直し、しっかりと歩んでいく決意のほどがうかがえる。

沢田先生の話聞いて・・・児童感想

・今日はお話をしてくださってありがとうございました。最後のお話ということで、しっかりと心で聞きました。その中で心に残った言葉が「きっかけ」と「一期一会」です。ぼくは先生のお話を聞いて、チャンスを待っている人間なんだなあと思いました。だから自分から、動こうと思っています。動いたら、人と会いそこで、きっかけが生まれ、人生が変わるということもわかりました。人生がかわると、チャンスが生まれ、それを貪欲に進むとまたきっかけがうまれるということなんだなあと思いました。そのためにも、ただ、ぼうっと動くだけでなく、積極的に動き、言ったら行動する人間になりたいです。二年間で、沢田先生から教わったことは、これからの人生で、役に立てたいと思います。(男子)

・今日はありがとうございました。沢田先生は2カ月半も動けない時があったのに生き続けようとしていたことに感動しました。私なら、生きる力を失っていたと思います。私は沢田先生のような経験をするにはたぶんないと思うけど、しっかり前を見ていきたいです。「チャンスは見逃さない」ことも大切だと思いました。日々の中でチャンスはたくさんめぐってくるから、後になってあすすればよかった、こうすればよかったと思わないように自分でチャンスをつかみたいです。後ろを振り返っては進みにくいから、前を見て進もうと思いました。一期一会という言葉にも感動しました。いつももっと良い行いをしていたら、良い人生になっていたかもしれないと時々悔やむ事がありました。でも今日の話を聞いて、失敗したおかげでいろいろと出会いがあるのだと思いました。今日は本当にありがとうございました。中学に行ってもがんばります。(女子)

・先生の2年間の話を聞いていろんなことを学びました。まず始めに人との出会いのことです。先生の話を聞いているうちに人との出会いを大切にしていこうという気持ちになってきて、先生はすごいな～と思いました。そしてきっかけ作りをがんばること。チャンスをしっかりとること。そしてぼくの心の中に一番強く残っているのは、人のためにがんばるということ。人のために一生けんめいになり、人のために汗をかく、そういう人を目指したいです。そして沢田先生の心の強さや広さを見習ってがんばっていこうと思います。もう卒業式でしか会えないのがとても残念です。ぼくは先生に教わったことをしっかり覚えていたいと思います。今日はパソコンではなく、イスに座って話してくれたことがとてもうれしかった。先生のようにみんなにパワーをあげられるようになりたいです。これからも元気に仕事をがんばってください。2年間本当にありがとうございました。(男子)

・ぼくは人のために、良い汗をかく、ということが一番印象深く一番ためになりました。何事にもイヤイヤやっていると、良い気持ちで取り組むのでは、何倍も価値が違うことがよくわかりました。自分もそういう経験が何度かありますが、そこまで深く考えた事はありませんでした。近い将来きっと役に立つことだと思います。あと、自分たちが集めた鉛筆が、バヌアツの子どもたちの役に立ててうれしいです。もう沢田先生の授業を受けられないのは残念です。今までありがとうございました。卒業式、楽しみにしててください。(男子)

短い時間の中から自分と沢田先生とを重ね合わせながらしっかりと話が聞けていたように思う。子どもたちがコソコソと書いた感想文を何度も読み返し、一人ひとりの心の成長を感じ取ることができた。バヌアツ共和国と交流をさせていただいて本当によかったと思っている。

子どもたちの卒業式を人生の師である沢田先生が今回も温かく見守って下さった。どの子も自分の夢を堂々と語り、全身の力を振り絞って別れの言葉を読み上げた。美しいハーモニーの合唱に沢田先生も担任も熱いものがこみ上げてきた。

この3月、私たち担任二人は転勤することになった。在職中の半分はバヌアツに関わらせていただいた思い出深い西山本小学校にお別れの挨拶をする離任式の日。体育館前には今まで受け持った保護者の方々がたくさん来て下さった。もう中学3年になる子のお母さんは「いまだにバヌアツの事を話しています。テレビにバヌアツが映るととんできて観ていますよ。」と話して下さった。何よりうれしい言葉だった。

沢田先生のお話の中の「一期一会」……。子どもたちと保護者の皆さまと沢田先生と私とが長い人生のほんの一瞬、時間を共有できたことに感謝したいと思う。

八尾市立南山本小学校に転勤して・・・

平成22年度 はじめの一步から・・・新しい職場での小さな挑戦

今年度、長年勤めた西山本小学から南山本小学校への転勤が決まった。一千本の桜並木が玉串川沿いに続く閑静な住宅街に建つ本校は、シンボルとなる円形校舎が有名である。その校舎で地域の方々が土曜日には子ども達のためにわくわくプラザというボランティア講座を開催されている。また、かつては文科省からの指定を受け、研究校として実践を重ねてきた伝統ある小学校である。子ども達も素直で礼儀正しく学力的にも高いように思う。私にとっては大変恵まれた環境の中で仕事ができるということでこの転勤に感謝している。が、やはり職場が変わるという事は何もかも勝手が違い、ちょっとした事にも慣れるまでに時間が必要であった。そんな中で今まで取り組んできた「バヌアツとの文化交流」がここでも出来るのだろうか……。

5年生を担当することになり、この取り組みを本校でもやってみたいということを校長に相談したところ逆に是非進めてほしい、人としての生き方を子ども達に学ばせてほしいと頼まれてしまった。再び「バヌアツとの文化交流」をさせていただく機会を与えられたことに対し感謝の気持ちでいっぱいだった。

他の2クラスの担任にこの取り組みの趣旨を話し、いよいよ南山本小学校でのバヌアツとの交流がスタートすることになった。

5年生の総合的な学習では、米作りや私たちを取り巻く環境について学習していくのであるが、他の教科とリンクさせながら、今自分たちにできることは？と常に考えさせたいと思っている。今年度、新たに取り組みはじめた本校の「バヌアツ共和国との交流」も、どんな国のどんな暮らしをしている人たちなのか……という自然環境から入ることにした。

バヌアツ共和国との交流を進めるにあたって5月に学年全体でオリエンテーションをした。なぜ、この取り組みを始めるのか……。単なる作品の交流だけでなく心の交流を図り、人として一番大切なことは何だろう？という課題を1年間かけて勉強していこう！と話した。子どもたちは話を真剣に聞き、たくさんの質問をしてきた。ここで答えることは簡単であるが、自ら調べてバヌアツの事を少しずつ分かっていくことも大事な学習の一つである。あえて質問には答えず次の調べ学習につなげていきたいと考えている。

16日(水)、沢田先生がバヌアツの国や人々の暮らしなどについての授業をして下さった。鉛筆や紙など、私たちが当たり前のように使っているものの殆どがラナケル小学校(交流予定の小学校)にはない。日本からの医療ボランティアの方たちが年に2回医療活動の際に衣類や文房具などを持って行かれるのである。虫歯や入れ歯の治療も機材を持ち込んで全てボランティア！この日、ものがない社会で暮らす人々の「素敵な笑顔」「素直な心」に魅了された沢田先生の熱いお話を聞かせていただくことができた。まだ、この取り組みが始まっていない時から南山本小学校の子どもたちはエンピツをどんどん寄付してくれている。ありがたいことだと思っている。子どもたちの温かい素直な気持ちを大事にしながらこの取り組みをコツコツと進めていきたいと思った。

保護者の感想

・この授業をするまでバヌアツ共和国のことは国名すら知りませんでしたが、子どもたちが色々調べたのを見せてもらったおかげで、知らなかった事を教えてもらい大変ためになりました。子どもも世界の国々に興味を持ち始めたようです。

・班発表、感心しました。どの班もどの子もめっちゃバヌアツ共和国に詳しくて、興味を持って調べたんだらうなあといひ知れたことが驚きでした。人形を作ったり、黒板の資料を作ったり、とても詳しい内容を短時間に分かりやすくまとめて発表できていて良かったです。

・子どもたちが自分たちで調べ、考え、発表し、達成感を感じている姿が印象的でした。外国をテーマにした点も良かったと思います。もう1時間、授業を参観したいと感じました。

・バヌアツ共和国の広さや人口、食生活などを良く調べ、班ごとにまとめており、子どもたちが一生懸命調べている姿が目に見えました。発表もみんなしっかり話が出来ていてすばしかったです。

子どもたちの感想

・今日のバヌアツの発表は、今までがんばったことが全部発揮されたんじゃないかなあと思いました。発表まではセリフやまとめはどうすればいいかなと悩んでいたけど無事に発表できて安心しました。他の班の発表も聞いていておもしろかったです。「すごいなあ。」と思うことがたくさんあってもっともっとバヌアツについて知ることができた感じがしました。・・・今回の総合でのバヌアツについての調べ学習では色んな事を学び教えてもらったことがたくさんあったと思います。

・バヌアツのことを調べたり聞いたりして、こんなに貧しくてもちゃんと暮らしているバヌアツの人たちはうまく工夫しているんだなあと思いました。

・日本は技術が発達していて便利です。今こうして楽しく生活していられるのがありがたいと感じています。

・ぼくは当たり前のように筆記用具を持っているけど世の中にはいろいろな人がいることも分かりました。食・住・学校・遊びとスポーツ・歴史・衣などいろいろなバヌアツのことが分かってうれしいです。

・みんなの話を聞いていたら、バヌアツ共和国がどれだけ貧しいか分かりました。ぼくたちとまったく違う住み方なのに、努力して生きていっていることを知りました。自分の命は自分で守ることはとってもむずかしいことだと思いました。

・バヌアツ共和国の生活はたいへんそうに見えるけどバヌアツ共和国の人たちは毎日を幸せに過ごしていることがわかりました。自然といっしょに生活しているのはすごいと思いました。ほかの人たちが発表しているのを聞いてとても勉強になりました。

・お風呂はなく、川や海で体を洗う。

・鉛筆は1本を3つに折って使う。

・サッカーボールは椰子の葉っぱを編んで使う。

・紙は貴重品で真っ黒になるまで使う。

・トイレは穴を掘って・・・靴はなく裸足で・・・



という各班からの報告を聞くにつけ、子どもたちはバヌアツ共和国の人々の暮らしを「かわいそう」「貧しい」というイメージで捉えているようだ。ほんとうにそうなのだろうか？これからじっくりと時間をかけて、自分たちにとって何が大切なのか・・・ということを学んでほしいと思っている。

子どもたちに、何を学ばせるか・・・。自分自身を見つめ直し、何が大切なのかを見抜く力をつけさせたい。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して「自分たちはどう生きべきか」ということを考えさせたかった。沢田先生の生きざまから何かを感じ取ってほしいと思い、学期に一回ごとの授業をお願いした。パソコンによる映像などは最小限にさせていただいた。ボランティアを始めたきっかけ、挫折感を味わった頃、感動で胸が熱くなったとき、「引きこもり」や「いじめ」にあった子どもたちと共にバヌアツの夜空を眺めて語り合ったとき・・・数々の体験談をシャワーのように子どもたちに浴びせてほしいとお願ひした。教科学習の定着は言うまでもないが いろいろな人々の生き方から学ぶということはそれ以上に大切ではないかと考えている。

以下は毎学期ごとに沢田先生に授業をしていただいた様子を保護者向けに発信したものである。

第1回目 バヌアツのことを知ろう！

雨の中、早朝より多数ご参集下さいましてありがとうございました。啓発学習ということで、これから1年間かけて取り組むバヌアツ共和国についての調べ学習の初期を見ていただきました。まずは、相手の国のことを知る・・・ということで、自然や文化、学校、衣、食、住、遊びを通して、世界にはいろんな人々がいるという広い視野を持たせることをねらいとしました。日本とはかけ離れた国の環境を知ることによって日本を見つめ直すきっかけにもなればと考えています。

実際に交流を始めるタンナ島の子ども達の生活を調べよう！とパソコン室でいろいろ検索をしてみました。どうしても観光客向けの情報が多く調べた内容に随分差がありました。そこで本校にゲストティーチャーで来て下さるジャパンデンタルミッション理事の沢田 Dr に現地での様子を担任が電話でお聞きしたり写真をお借りしたりしてタンナ島のありのままの姿を教えてくださいました。自分が行くとなると現地までどれくらいの時間がかかるのか・・・というところから出発（子どもたちはせっかく調べたのにメモを手元に置いていなかったようです。）し、はるか彼方の全く異なる文化の子ども達に思いを馳せました。バヌアツはバンジージャンプ発祥の地だそうです。元服にあたるこの儀式。男の子たちは「バヌアツに生まれてたらこんな怖いことせなあかんねんな。」とつぶやいています。一方ではどこまでも透き通るサンゴ礁の海を眺めて、「こんなきれいなとこに住みたいな。」・・・だそうです。私たちと比べればタンナ島はほんとに不便で生活は厳しく暮らしは大変だと思います。そんな島の子どもたちとどんな交流が出来るのでしょうか？これからみんなで考え、具体的な取り組みを進めていきます。

第2回目 バヌアツのことをもっと知ろう！

沢田先生の2回目の授業が行われました。診療所の休診日にあたるこの日、早くから本校にきていろいろと準備をされていました。沢田先生は子どもたちが大好きでこの日を楽しみにしておられたようです。スクリーンに映し出された現地での医療活動や子どもたちが描いて送った絵を楽しそうに掲げている様子を見て「あっ、あのお城、〇〇君が描いた絵や！」と叫びながら、確かに遥かかなたのバヌアツに届けていただいた！という実感がわいてきたようでした。また、世界で一番近づける火山の迫力ある噴火の様子に、子どもたちは「ウォーっ！！」と腹の底から歓声をあげ一心に見入っていました。昼は灰色一色の噴煙ですが夜は赤々と火を噴くヤスール火山の二つの顔を子どもたちはどう受け止めたのでしょうか。この間、子どもたちはきっとバヌアツに身をおいて大自然を楽しんでいたのではないかと思います。遠い遠いまだ見ぬ国「バヌアツ」へ私も子どもたちと行ってみたいと思いました。前回同様、沢田先生を囲んでのランチタイム。食事を共にするというのはほんとにいいですね。仲良しになる絶好の機会です。今回は2組で食べていただきましたが、一緒に来られた理事の栗山さんは我がクラスで・・・ということでこれまたクラスが盛り上がりました。

第3回目 沢田先生の授業

今回のお話は子どもたちには少し難しいかなと思いましたが、敢えてこのテーマにさせていただきました。中学生の時ひきこもりになり高校も入学したものの1年生の2学期で中退し、目的もなくゲームに心のよりどころを求めている「新井さん」の体験談が教材でした。新井さんが、何となくバヌアツのボランティア活動に参加することとなり、沢田先生らと共に10日間を現地で過ごす中で次第に自分の意識が変わっていく・・・。帰国してからは、自分には仲間がいること、自分は生かされていることなどに気づき音楽大学に合格するまでのことを、新井さん自ら書いた文から学びました。

子どもたちの書いた感想文はなかなか読みごたえのあるもので、近々これを沢田先生にお渡しする予定です。

「仕事は自分で見つけるもの。」「自分は必ず誰かの役に立っている。」

「生かされていることに感謝すること。」「私も変われるような気がする。」

「周りからかけてもらった言葉がきっかけで一歩前に進むことが出来る。」…

子ども達の心の中に様々な思いが生まれました。今は難しいかもしれないけれどいつかきっと、こういう授業の中の一つでも「ああ、こういうことやってんなあ。」と思いだしてくれることを信じてこれからも頑張ろうと思います。

授業の後、「世界がひとつになるために」♪を合唱し、各クラスの学級代表がお礼の言葉を述べ、全校で集めた鉛筆を沢田先生にお渡ししました。子ども達の歌声に先生は胸が熱くなったようですよ。

お忙しい中、参加して下さいましたこと保護者の皆さまには心よりお礼申し上げます。

今年度最後の取り組みとして、バヌアツに贈るタペストリー作りを予定しています。2月17日の参観後になるかと思っています。

素敵なタペストリーが仕上がりました！

3日（木）放課後たくさんの保護者の方にお手伝いいただき、バヌアツに贈るタペストリーが仕上がりました。クラスごとに班で1枚の白い布に自分の顔とカラフルな手形を描きました。それを6枚つなぎ裏打ち用の布を合わせベッドカバー程の立派なタペストリーが完成しました。来年度の7月、この作品を沢田先生に託しバヌアツまで

持って行っていただきます。保護者の皆さまには遅くまで作業して頂き、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。(学級通信より)

本校での1年間を終え、子ども達の中には沢田先生もバヌアツの人々も自然に溶け込み、次なるステップを心待ちにしているようだ。自分達にしかできない素敵なこの取り組みがさらに深く温かく充実したものになるよう頑張りたいと思う。

平成 23 年度

子どもたちが描いたタペストリーラナケル小学校の教室に飾ってもらおう！

6人グループごとに大きな白い布に自分の

似顔絵や手形、メッセージや名前を描いた。

放課後たくさんの保護者の方にお手伝いいただき、各クラスごとに6枚をつなぎ裏打ち用の布を合わせベッドカバー程の立派なタペストリーが完成した。



7月、この作品を沢田先生に託しバヌアツまで持って行っていただいた。10日間のボランティア活動を終えられた沢田先生はラナケル小学校の子どもたちが描いたタペストリーを持ち帰って下さった。会ったことも話したこともないけれど、目には見えない不思議なつながりを感じる。

2月 昨年から教えて6回目の沢田先生の授業

今回は東日本大震災のボランティアに行かれた様子を話して下さいました。

子どもたちには筆記用具を持たさず「耳と心でしっかり聴くように。」

と伝えた。東北でのボランティア活動の様子を映像で15分間見た後、

先生からのたくさんのメッセージをいただいた。

児童感想文（抜粋）

今回、東日本大震災の現地で撮ったビデオを見て、人は支え合って生きているんだと改めて思いました。全国から集まった歯ブラシ1本1本に熱い思いが込められていて感動しました。津波で全てを流されたから、毎日生活する中で必要なものを一から作らなければならないので本当に大変だなあと思いました。震災のあった東北地方と、私たちの普段の生活を比べたら私たちの生活は本当に幸せだと思います。温かいご飯を食べることも、お風呂にゆっくりつかれることも、どんなにささいな事でも幸せだと思う事が大切だと思います。今までの2年間を通して命の大切さ、物の大切さ、そして何より人と人とがつながる大切さを学習しました。(女子)

震災後の問題は、衣服や食料などと思っていましたが、歯の問題も大事ということを知っていませんでした。入れ歯などは特に大事だと思います。歯も磨けないのも困ると思います。だから、そういうボランティアは本当に助かると思います。また集められた歯ブラシについていたメッセージはどれも励みになるようなものばかりで感動しました。大切なのは、分け合う心。自分だけでなく、他の人と分け合うというのは本当に生きていく上で必要な事だと思うし、みんながやれば争いのない平和な世界になると思います。(男子)

今、世界中で生きている人々は、東日本大震災で亡くなられた方々のために精一杯生きなければならないと思います。そして、私たちは生きる喜びを感じないといけないと今回の授業を聞いて改めて思いました。大切にしないといけないと思うのは、ほうれんそう(報・連・相)や かきくけこ(か…感動、き…協力、く…工夫、け…健康、こ…行動力)や分かち合う心。そして、人生とは、有頂天にならず、くよくよせず、元気でいなければならないということを守りたいです。(女子)

今日はヴァヌアツのことじゃなくて東日本大震災のことについての授業だった。小学校でも募金活動や、震災について知ってもらう活動をしました。写真をみて思ったことがいっぱいある。一つはスタッフの人は、いつでも明るく元気があること。しんどいから元気がない、でもこちらよりしんどいのは東北の人なんだから、ずっと元気だよと決めたんだと思う。二つ目は、スタッフの目。歯の治療をする時の目、すごく真剣な目だった。あの真剣な目を見ると、本気で取り組んでいる気持ちが伝わってきた。私たちはあんな目になったことがあるのか、本気でそのことに取り組んでいるのか。多分出来ていないと思う。だから、沢田先生が言っていたとおり、授業もだるい、とか言わずに、真剣に取り組もうと思う。今日の授業は、大切なことがいっぱいあった。一つは、いつでも元気よ

く、二つ目は、どんなことでも真剣に取り組む気持ち。私は二つしか見つけられなかったけど、見つけられた二つのことをしっかり覚えておきたいです。(女子)

本学年に絞っての取り組みであったが、やがて巣立っていく子どもたちの心を耕し、最も大切なことは何なのかに気付かせ、生きる力を育てる一助になればと考えた。学校の顔である高学年に誇りと自覚を持たせ、自己管理の出来る人間になって欲しいという願いを、毎日の授業の中で取り組むことは当然ではあるが、さらには視野を広げいろいろな人々の生き方から多くを学びとることも大切ではないかと思う。そのためには私たち指導者も、温かく且つ毅然とした態度で子どもたちと向き合わなければならないと思う。若い教職員が増える中、こうした取り組みを見せることが教育現場では必要ではないかと思っている。

平成 24・25 年度

バヌアツにブンブンごまを送ろう！！福笑いを送ろう！！

初めて見るバヌアツ共和国の様子に 5 年生になったばかりの子どもたちは歓声を上げたり驚いたり……。バヌアツはどこにあるの？自然は？暮らし方は？どんなものを食べているの？着ているものは？どんな家？トイレはあるの？お風呂は？飲み水は？……。事前にはパソコンなどで調べていた子どもたちだが、情報はバヌアツの観光地が中心で、首都ポートヴィラのリゾートホテルの近辺の映像などが殆どである。私たちが交流するレナケル小学校はタンナ島にあり、電気もガスも水道もない所。小さなスーパーがあるが物価がとても高く日用品でもなかなか買えないのだそうだ。

それでも、日本とはもう全く異なる環境で暮らす子どもたちの満面の笑みをみて、「なんでこんなに素敵な笑顔になれるんやろ……。？」というひとつの疑問も生まれてきた。さて、何でやろな？ 今回も 2 年間かけて学ぶことになった。

まずレナケル小学校の友だちに、南山小 5 年生手作りのカラフルブンブンごまを送ることになった。

一人一つ、心をこめて作ろう！！レナケル小学校へも沢田先生が材料を持って行って下さって現地の子どもたちが作ったもらい、また 5 年生に届けて下さるということで楽しみが増した。！

1 月 30 日 (水) 沢田先生の授業

本当の幸せとは何なのか？生きるってどういうことなのか？私たち大人にとってもなかなか難しいテーマであるが、あえて今の子ども達にじっくり考えさせることが狙いである。今回は、宮崎テレビが沢田先生のボランティアチームと同行し、活動の様子取材した映像を見せていただいた。現地の自然や生活、文化や学校の子どもの様子などが紹介され、今までは写真でしか見ていなかった子どもたちには大変興味深い内容だった。歯の診療も抜歯や入れ歯調整など年に一度しかない治療のチャンスに大勢の患者さんが列を作り、スタッフの方たちの活躍ぶりがとてもよくわかった。また、5 年の子どもたちが一学期に作って送ったぶんぶんごまが現地の子どもたちが珍しそうに楽しそうに遊んでいる映像が映ったときは「うわ～つ！あれ、この前送ったぶんぶんごまやん！！」「あれ、俺のんちゃうか～？」「ほんまやつ！」などとえらく盛り上がった。

6 年生になった子どもたちは福笑いを送ることを思いついた。思い思いの表情が楽しい福笑いでの文化交流が最後となり、私は今までの取り組みをしみじみと振り返る日々が増えた。

7 年という長い時間、バヌアツ共和国との文化交流に関わらせていただいた。

本当の幸せとは何か、生きるとはどういうことか、子どもたちにしてみればなかなか難しいテーマだったように思うが、彼らなりに自分の今と重ねてよく考えたのではないかと思う。複雑な社会に生きる子どもたちが、少しでも優しくしなやかな心で相手の立場に立って周りの人々に接することが出来るよう、また、いろいろな困難に出会ったとしても、強い心で逞しく立ち向かえることが出来るよう、この学習を進めてきたつもりである。将来、何かの折にバヌアツの人々の明るい笑顔を思い出してくれれば幸いである。

最後になりましたが、私にこのような機会を与えてくださった沢田先生はじめ JDM の皆様に心より感謝申し上げます。

「幸せってなんだろう……。？ 文明文化が幸せにつながっているのではないと思います。人はみんな一人で生きていけません。生きるというのはみんなで助け合うことだと思います。人間の心は気持ちの持ち方次第です。今自分が生かされていることに感謝すること。そして一生懸命生きること。幸せに生かしてもらっているからこそ努力をする。がんばる元気が出るのです。幸せとは自分の心の中にある……。私はそう思います。何回も死に目にあっている私は、人のためになることを決意し「生かされし我が人生に感謝」しながら体が動かなくなるまでバヌアツやフィリピンへの医療ボランティアを続けたいと思っています。」－沢田先生の言葉より－

国内活動

2013年5月17日(金) 大阪城東ロータリークラブにおいて卓話
ホテル ニューオータニにて
「南太平洋における医療奉仕活動と青少年育成について」
講師：沢田宗久

6月19日(水) 八尾市立南山本小学校6年生対象1学期の授業
「バヌアツでの歯科医療奉仕活動について」の授業担当
参加者：沢田宗久・栗山雅行・林 拓

8月19日(月) 船場ロータリークラブにて卓話
「バヌアツでの歯科医療奉仕活動に参加して」
バヌアツに学生ボランティアとして参加した富本さん
斉藤君による体験談と感想を発表
参加者：沢田宗久・富本恵莉・斉藤勝一

10月23日(水) 八尾市立南山本小学校6年生対象2学期の授業
ボランティアを通じて道德の授業を担当
参加者：沢田宗久・栗山雅行

2014年1月29日(水) 八尾市立南山本小学校6年生対象3学期の授業
ボランティアを通じて道德の授業を担当
参加者：沢田宗久・栗山雅行・溝畑史子

2月26日(水) 生駒ロータリークラブにて卓話
「国際歯科医療奉仕活動について」
参加者：沢田宗久

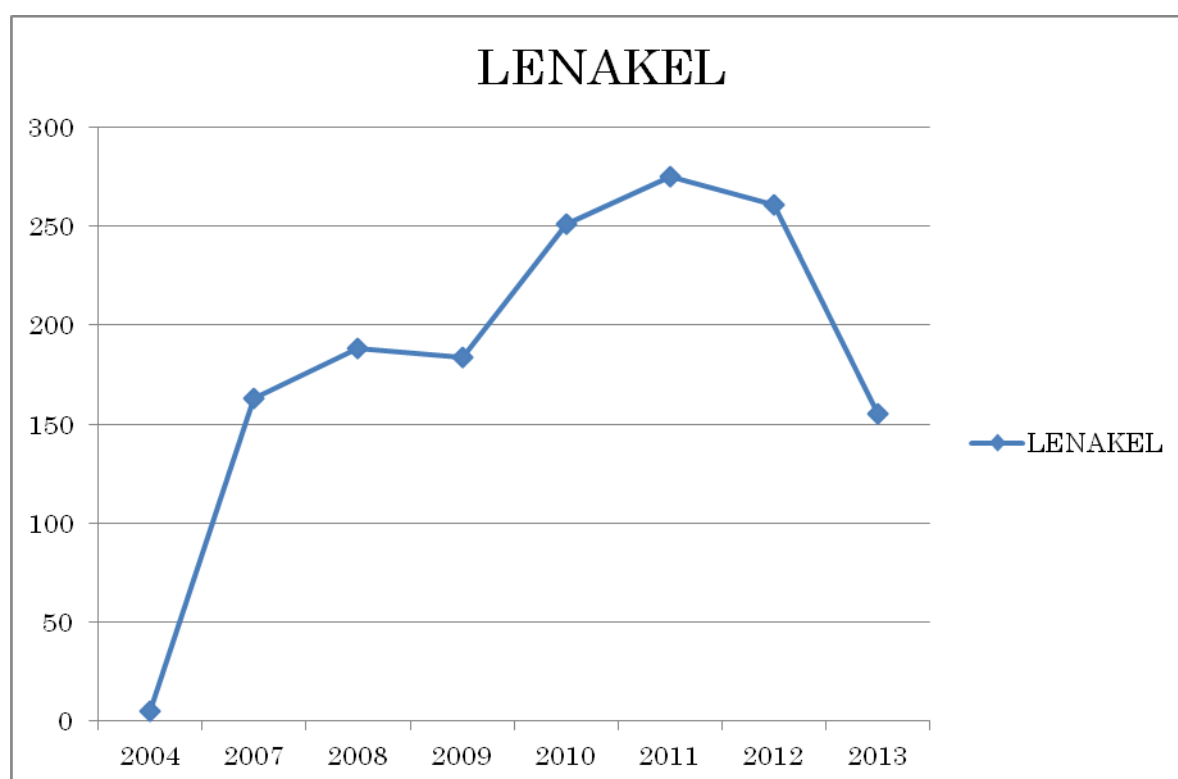
3月18日(火) 八尾市立南山本小学校 卒業式に参加
参加者：沢田宗久



学術報告

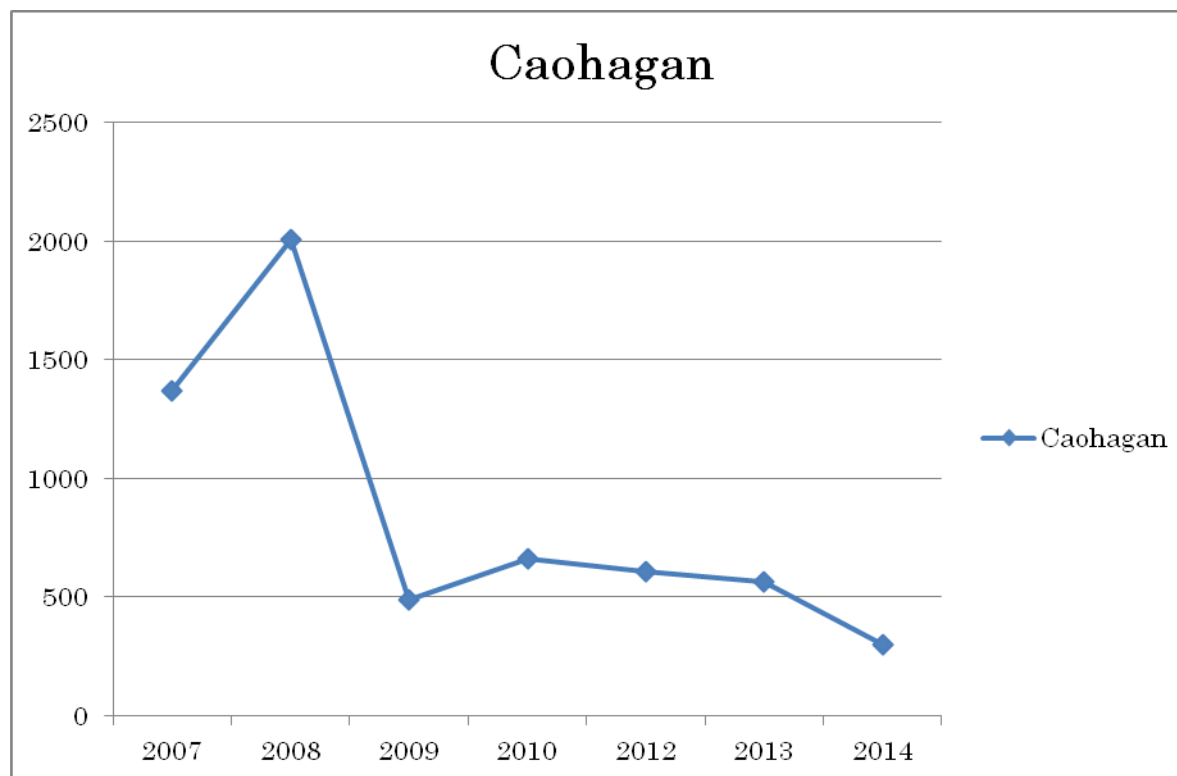
ヴァヌアツ Lenakel 小学校の DMF 指数

School Names	データ	2004	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
LENAKEL	合計 / DMF	5	163	188	184	251	275	261	155
	合計 / D	5	160	181	181	251	269	248	146
	合計 / M	0	3	2	1	0	3	13	6
	合計 / F	0	0	5	2	0	3	0	3
	検査人数	6	250	278	300	246	298	336	230
	平均 : DMFT	0.8	0.7	0.7	0.6	1.0	0.9	0.8	0.7



フィリピン カオハガン島の DMF 指数

School Names	データ	2007	2008	2009	2010	2012	2013	2014
Caohagan	合計 / DMF	1,371	2,005	489	662	610	562	298
	合計 / D	876	1,224	415	510	339	429	256
	合計 / M	366	556	18	13	93	22	9
	合計 / F	129	225	56	139	178	111	33
	検査人数	236	412	134	144	176	130	84
	平均 : DMFT	5.8	4.9	3.6	4.6	3.5	4.3	3.5



ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動
 - ・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動
マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。
 - ・フィリピン共和国における歯科医療活動
カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。
2. 文化交流活動
 - ・絵画交換
ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。
また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。
3. 生活向上活動(派遣国の生活のQOLがより向上するための活動)
 - ・文房具、スポーツ用品の寄贈
歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。
 - ・運動会の開催
フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。
4. 青少年育成
精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング(株)
- ・ オーエム歯材(株)
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 清原(株)
- ・ 共栄社化学(株)
- ・ クリエイト(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス(株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 笹野電線(株)
- ・ 沢田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ (株)ジャックス
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ セキセイ(株)
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ ナカガワ(株)
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ ニッタハウス(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 根来(株)
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ (株)林
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ・ 山貴産業(株)
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAヴァヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)

本年度寄付を頂いた皆様

- | | | | |
|---------------|----------|--------|---------|
| ・赤木 宗成 | ・川田 昌美 | ・武田 康子 | ・藤本 茂子 |
| ・荒石 義一郎 | ・儀三武 壽美子 | ・田中 雅子 | ・前田 洋美 |
| ・伊坂電気(株) | ・佐々木 孝子 | ・塘 真紀 | ・森田 順子 |
| ・伊豆 周久 | ・沢田歯科 | ・西澤 永子 | ・森本 ふみ子 |
| ・大阪船場ロータリークラブ | ・ソロプチミスト | ・西村 文延 | ・森山 朋子 |
| ・斧原 周子 | ・滝 晴子 | ・東 定子 | ・山村 瑛子 |
| ・片岡 清夫 | ・竹内 智子 | ・早坂 奏香 | |
| ・金本 裕光 | ・武内 仕女子 | ・藤井 和子 | |

敬称略

2014年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます。現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。
詳しくは、ホームページ <http://www.japandentalmission.org> をご覧下さい。

日 程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日 程	締切日
7月タンナ島	2014年 7月 12日～ 7月21日	2014年 6月12日

フィリピン共和国		
チーム名	日 程	締切日
9月レイテ島	2014年 9月10日～ 9月15日	2014年 8月10日
11月カオハガン島	2014年11月20日～11月24日	2014年10月20日
2月カオハガン島	2015年 2月 6日～ 2月11日	2014年12月25日

募集人員

歯科医師	約4名
歯科技工士	約4名
歯科衛生士	約4名
ボランティア	約4名

参加費用

	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国	フィリピン・レイテ島
科 目	金 額	金 額	金 額
航空運賃 *1	約25万円	約8万円	約 8 万円
滞 在 費	なし	なし	約2万円
海外旅行傷害保険代	約1万円	約5千円	約5千円
ユニフォーム代 *2	3千円	3千円	3千円
合 計	約26万円	約8万円	約10万円

*1:航空運賃は時期により変動します

*2:持っていない方のみ

理事紹介



代表理事 沢田 宗久
沢田歯科
院長 歯科医師



副代表理事 栗山 雅行
ベリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
代表取締役



理 事 河内 光明
沢田歯科
歯科技工士



理 事 上崎 秀美
歯科医師



理 事 田中 良明
上がり口歯科医院
歯科技工士



理 事 小西 あゆみ
大谷歯科
歯科衛生士



理 事 吉井 照子



理 事 富田 真仁
富田まひと歯科
院長 歯科医師



理 事 島 猛
上がり口歯科医院
歯科技工士



理 事 橋口 敦
有限会社 ファイン
代表取締役 歯科技工士



2014年 6月14日 発行

発行者 NPO法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085

大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL:06-6252-0118 FAX:06-6641-5572

URL:<http://www.japandentalmission.org>

E-mail:info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。